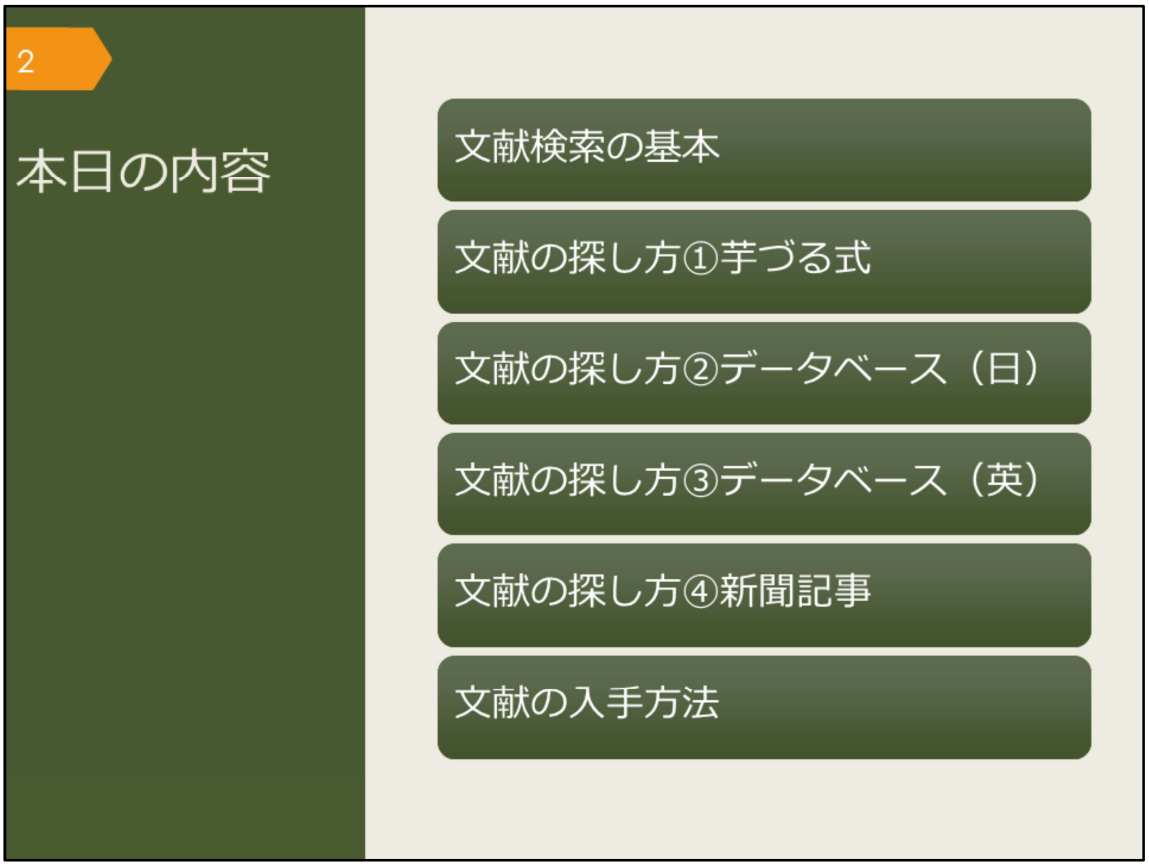
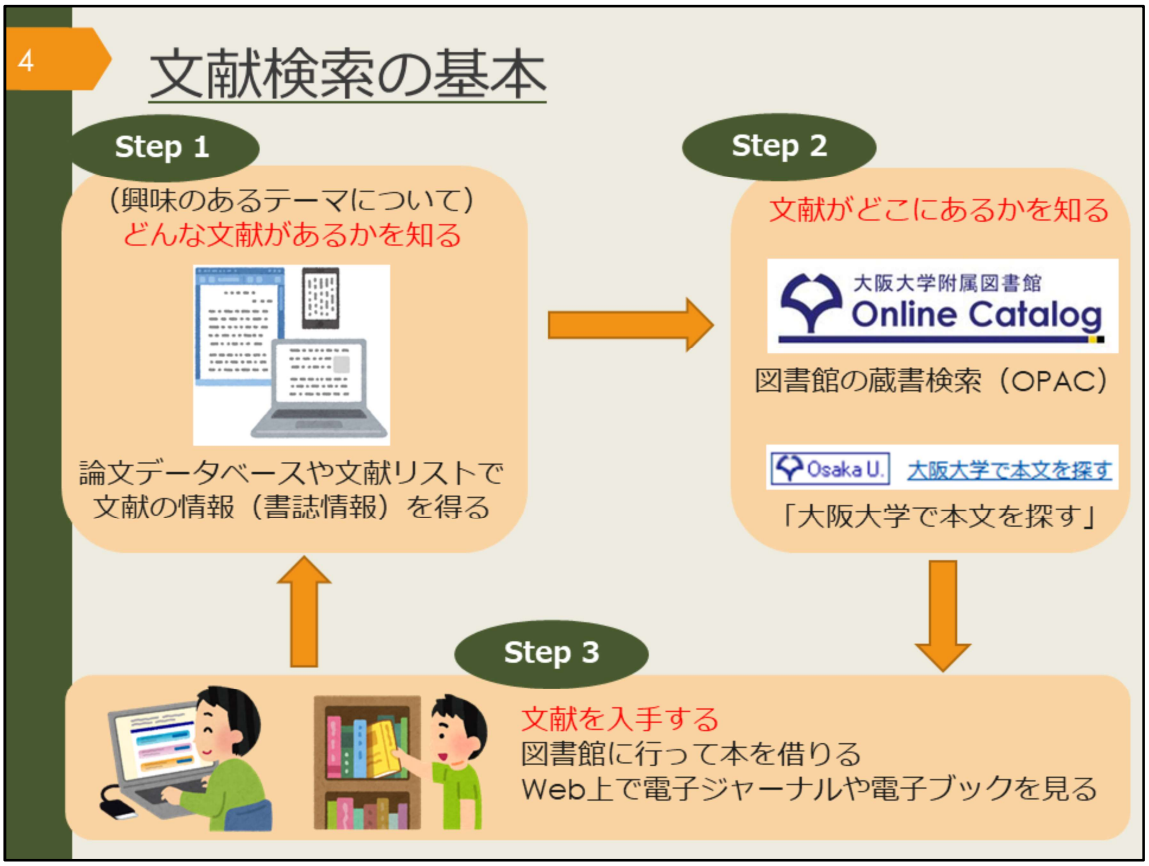
2022年度文献検索ガイダンスを始めます。
このガイダンスでは、これから卒業論文に取り組む皆さんに、文献検索に役立つ情報を紹介します。



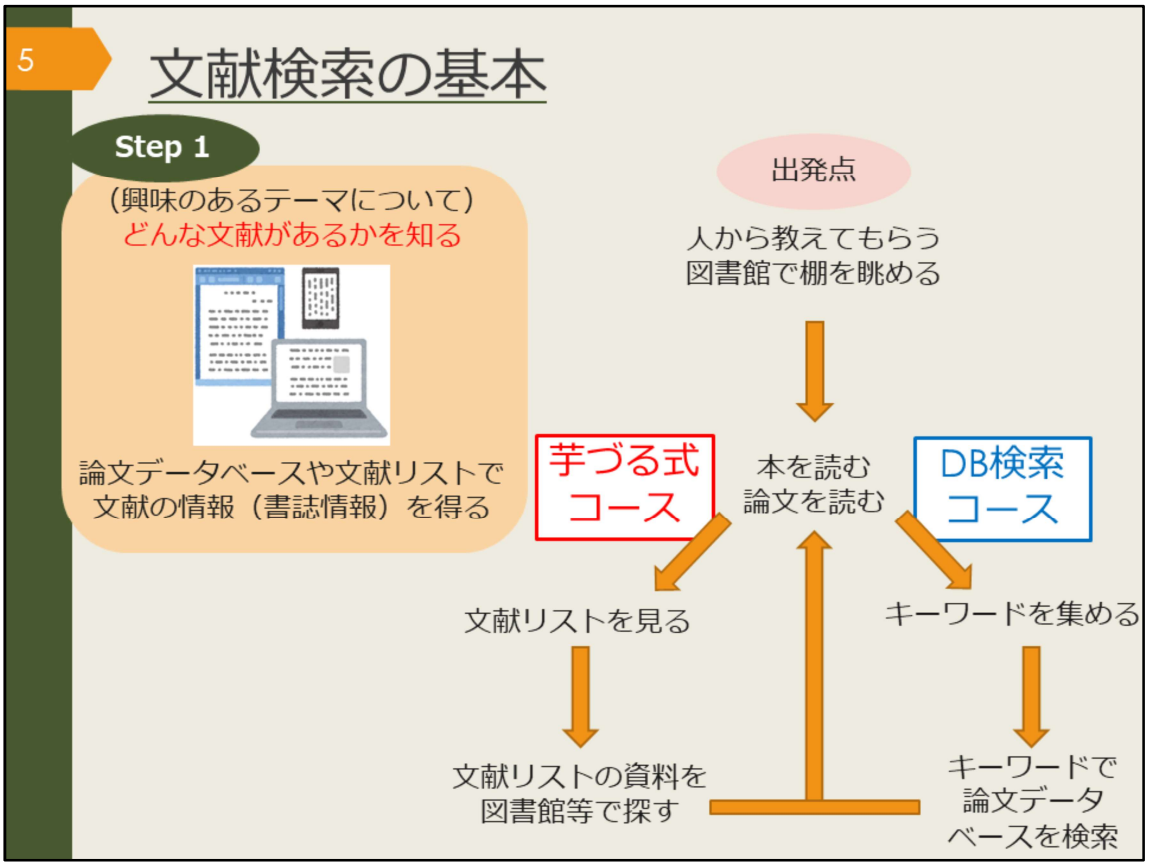
このガイダンスでは、６つの項目について説明します。
まず、文献の探し方の基本について概観した後、詳しい探し方を４つに分けて説明します。
最後に、文献を実際に入手して読むための方法をいくつか紹介します。

卒業論文の作成は、どのようなプロセスで進むのか見ていきましょう。
最初に重要なのは、テーマを決めることです。これまでに勉強してきたこと、日々の生活の中で興味を持ったことなど、初めはぼんやりとしたもので良いので何かテーマを考えましょう。
次に、ぼんやりとしたテーマを論文という形にするために、知識を深める必要があります。これまでの研究から分かったこと、解決されていない問題点について、誰よりも詳しくなるつもりで調べます。その中で、卒業論文の題目としてふさわしい論点を見つけましょう。
論文の核となる論点が決まったら、裏付けとなる情報を集め、執筆していくことになります。

論文作成は概ねこのようなプロセスで進みますが、情報を集める中でテーマの見直しが必要になったり、執筆しながら必要な情報を集めたりと、引き返すことや同時進行することもあります。行き詰まって悩んだ時には、指導教員に早めに相談しましょう。
また、「卒論テーマを決める」「研究の論点を決める」「論証、執筆する」という部分は、最終的に自分で頑張るしかないところですが、その準備段階となる「情報を探す」部分は、図書館が手助けしますので、ぜひ有効活用してください。

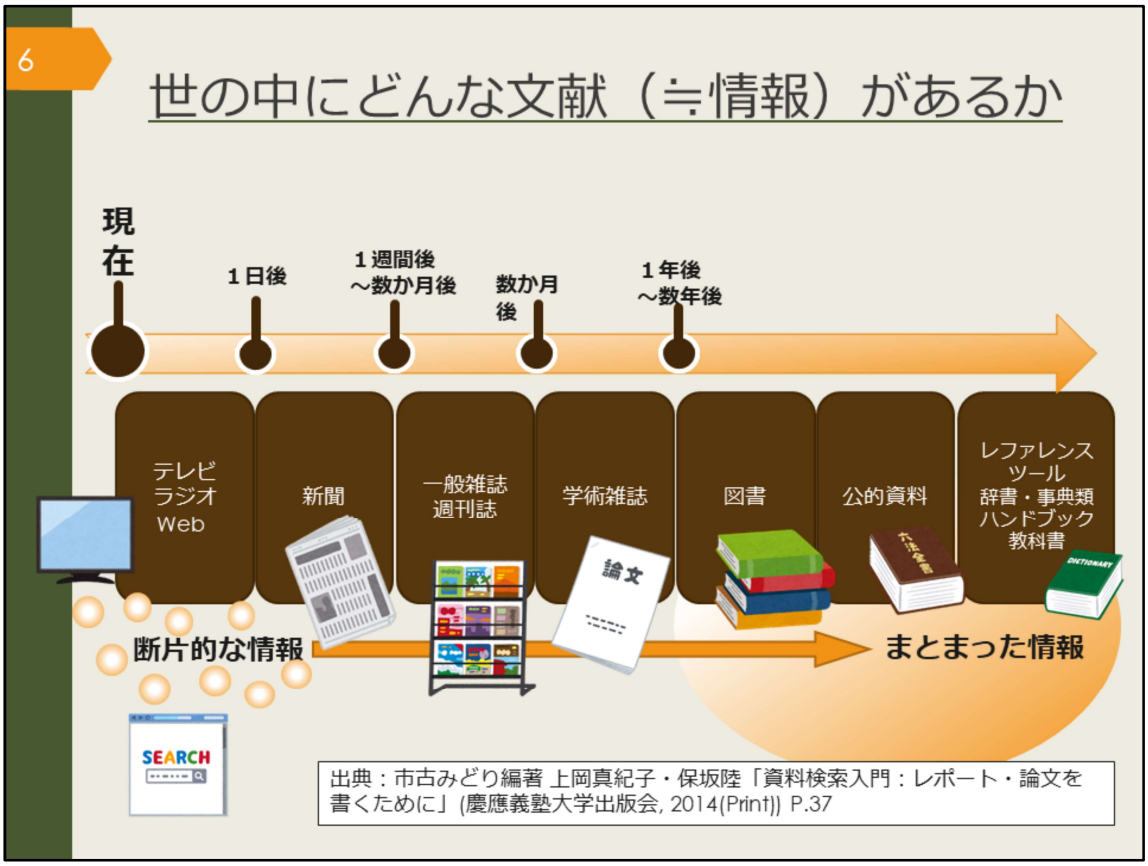


文献の探し方の基本的な流れを図で見ていきましょう。卒論プロセスのどの段階でも、基本は同じです。
まずは、世の中に「どんな文献があるかを知る」ことから始まります。先生から授業中に紹介してもらったり、教科書に参考文献として書かれていたり、論文データベースなど論文を探すためのツールを使ったりして、文献の情報、「タイトル・著者・刊行年」といった書誌情報を手に入れます。
次に、その文献を実際に読むには、文献がどこにあるかを調べなければいけません。文献がどこにあるかを探すツールの一つに、図書館の蔵書検索があります。
また、どこにあるかを探す場合は、文献を入手するという次のステップを見据えてツールを選びましょう。
無料で入手できる方法としては、阪大OPAC、阪大契約データベース、インターネットのフリーアクセス、などがあります。有料でしか入手できない場合は、学外から取り寄せる方法、自分で購入する方法、と調べを進めてみましょう。
文献を探すことに慣れてくると、この文献は大阪大学の図書館にありそうだ、あるいは論文データベースに収録されているだろう、などの見当がついてくるでしょう。



文献検索の出発点としては、以下のような方法があります。
一つ目、人から文献の情報を教えてもらう（指導教員やゼミの先輩に、その分野の代表的な本や論文を教えてもらったり、シラバスの参考書欄を見たりする）
二つ目、図書館でブラウジングする（テーマ別に本が並んでいるので、興味のある分野の棚を眺めてみる）

どちらかの方法で、気になった本や論文をまず読んでみて、次のステップに進みましょう。
→「芋づる式コース」参考文献として紹介されている情報を得て、芋づる式に新しい文献を発見する方法です。
→「データベース検索コース」興味のある分野の具体的な知識（言葉、キーワード）を得て、データベース検索で新しい文献を発見する方法です。

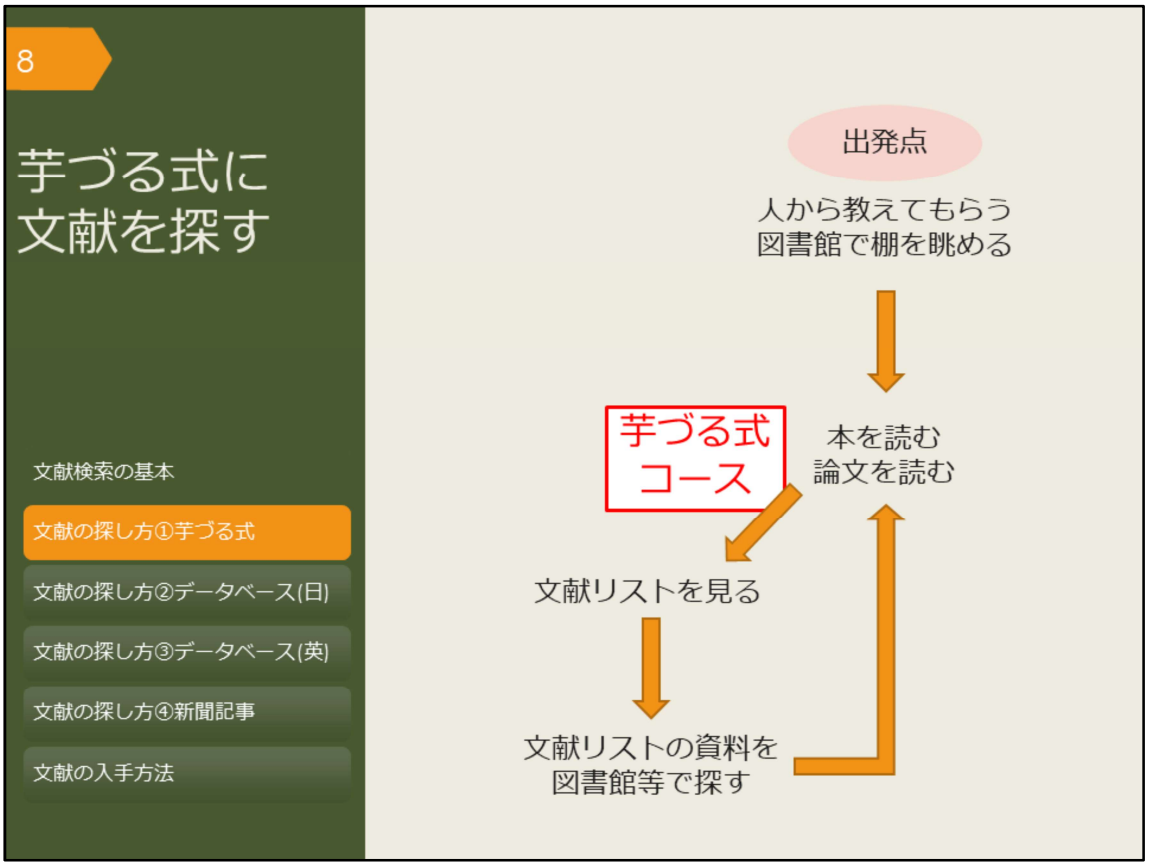


文献検索の具体的な方法に入る前に、一口に文献や情報といっても、様々なメディアで発信されていることを押さえておきましょう。

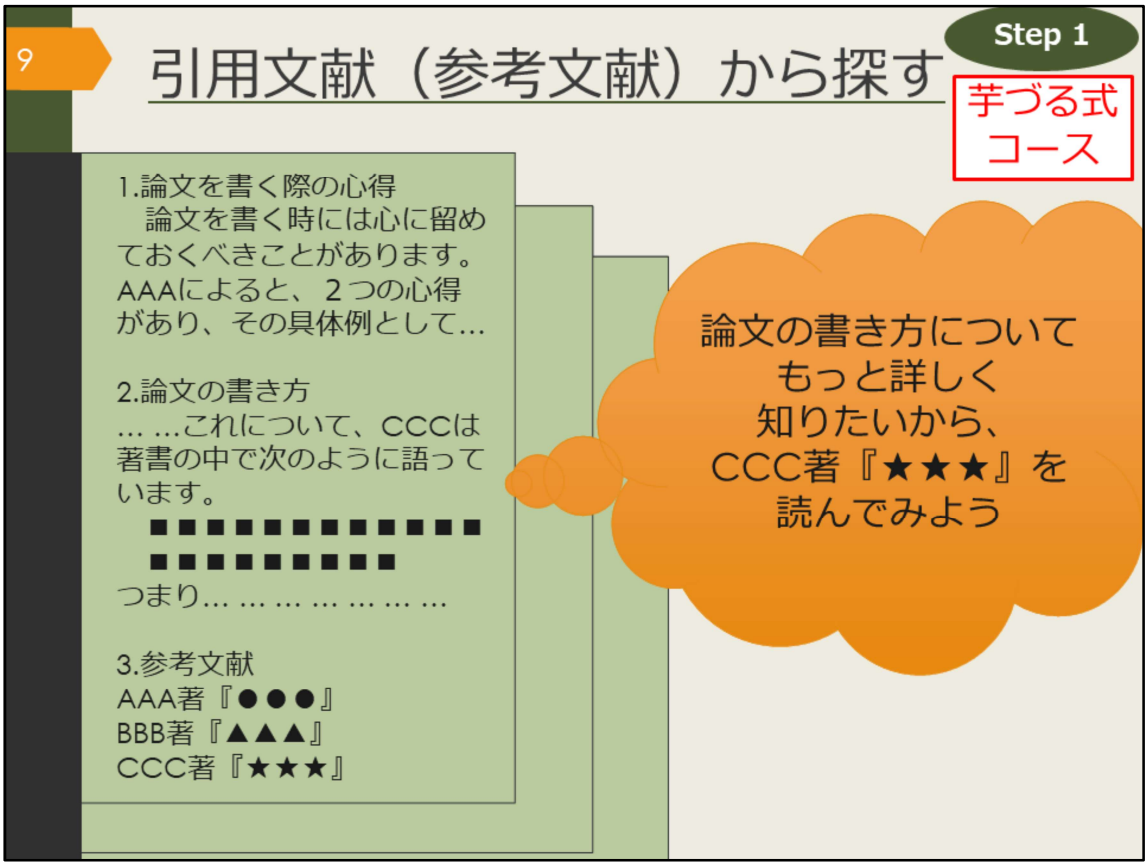
この図は、世の中の情報が、時間が経つにつれ、精査され、淘汰されて、信頼できる情報に変化していくことを示したものです。
時間が経つにつれて、情報が公開される媒体も図のように変化していきます。

自分が探している情報が、どのメディアに載っているかを意識して検索するツールを選ぶことが重要になってきます。
新聞記事を探しているのに、国語辞典を調べる人はいませんよね。
新聞記事を探したい場合は、記事の情報をまとめている新聞記事索引と呼ばれるような資料や、新聞データベースを調べる必要があります。
論文を探している場合は論文データベース、図書を探している場合には図書館の蔵書検索というように、探す文献と、それに合ったツールを使い分けることが大切だと覚えておきましょう。

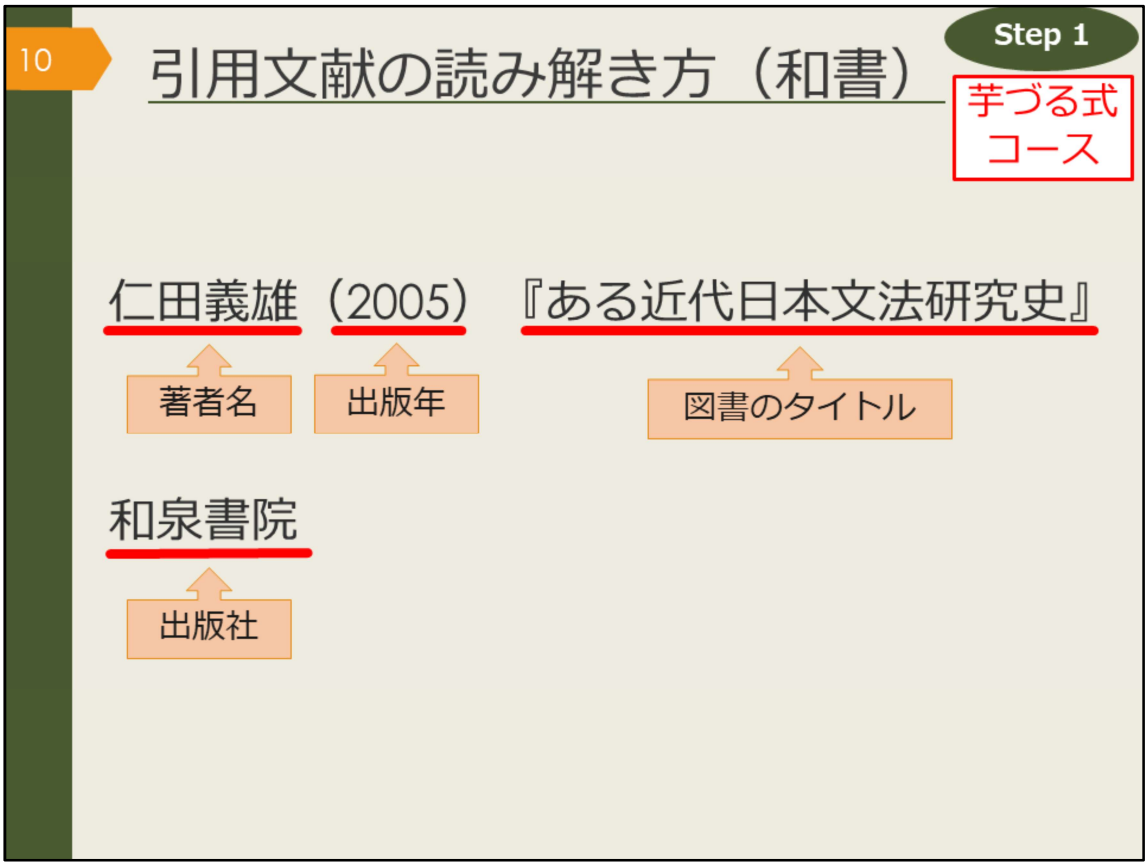
また、自分が今、卒論のプロセスのどの段階にいるのかによって、探すべき文献は異なります。
テーマがぼんやりしている段階なら、入門的な図書や、あるテーマを広く浅く取り上げているような概説書などを読むと良いでしょう。
テーマが明確になり、より詳しく深い情報を得たいという段階なら、専門的な研究書や論文を読むことになります。
論文を書くために、インタビューやアンケートを行ったり、統計書や白書を元にデータを集めたりする必要があるかもしれません。
段階ごとの目的に応じて、ふさわしい文献を探せるようになりましょう。



ではまず、芋づる式に文献を探す方法を紹介します。
ある文献で紹介されている本や論文を芋づる式に探していく方法です。



学術的な図書であれば、書くにあたって参考にした資料や、引用した情報、関連のある文献が紹介されています。そのような文献を参考文献や引用文献といいます。
特に、『〇〇入門』や『〇〇概説』のような、初学者向けに書かれた図書には、より詳しく知りたい場合はこの文献を読みましょう、と書かれていることが多く、ガイドブックの役割を果たします。
これらの文献を芋づる式に読んでいくことで関連する資料を次々に見つけることができます。
引用文献は独特の形式で書かれているので、その形式に慣れて文献を探せるようになりましょう。

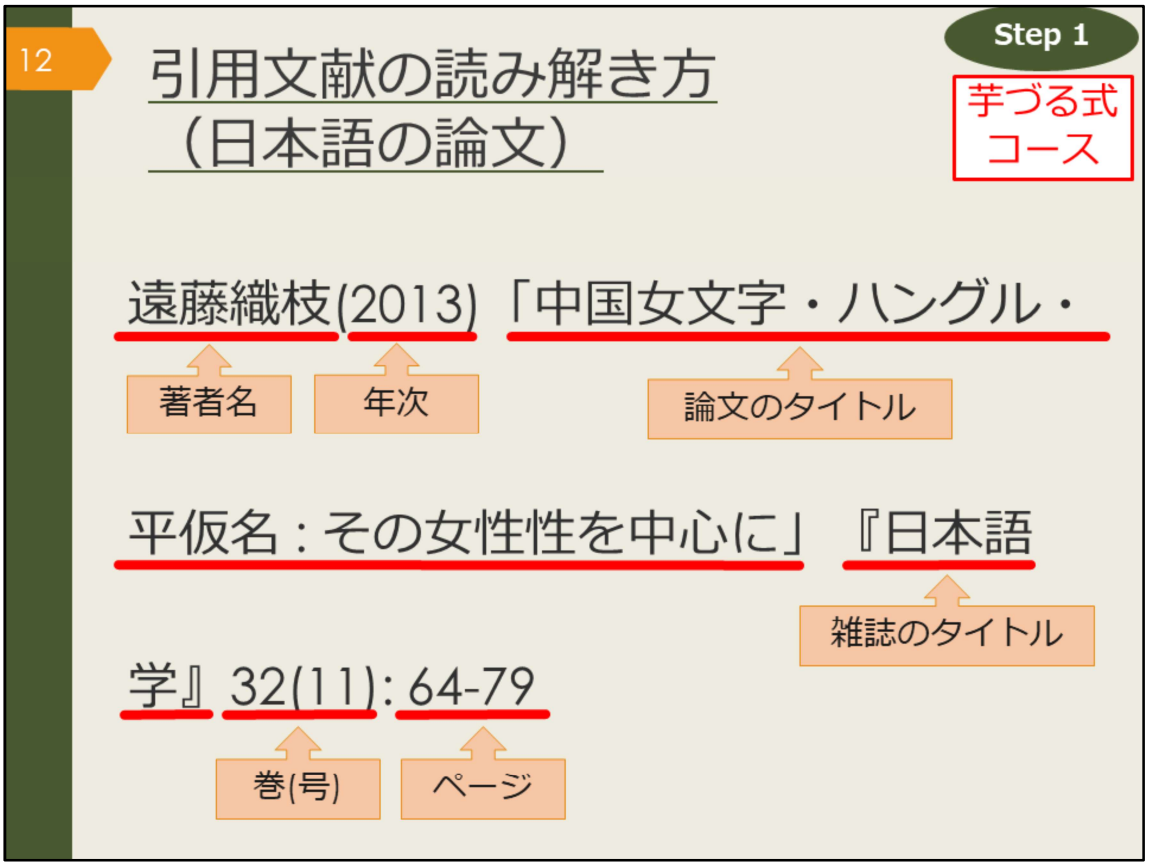


これは、日本語の図書を引用文献の形式で書いた例です。引用文献の形式には様々なスタイルがありますが、書くべき要素はだいたい決まっており、
ここで挙がっている「著者名、出版年、図書のタイトル、出版社」が基本事項になります。

引用文献として紹介する時には、資料を特定するための情報を漏れなく書く必要があります。読者がその文献を読みたいと思った時に、辿り着けるようにするためです。
こうした資料を特定するための情報を、書誌（しょし）事項や書誌情報といいます。

では、ここに書かれている要素の中で、どれを使って阪大OPACを検索すればこの図書を探し出せるでしょうか。
阪大OPACでは、著者名、図書のタイトル、出版社などのキーワードで検索できます。出版年を検索ボックスに入力すると、上手くヒットしないことがありますので注意しましょう。

これは、英語の図書を引用文献の形式で書いた例です。
日本語とほぼ同じですが、外国の図書の場合は、出版社に加えて出版地も書かれることが多いです。こちらもOPACで検索する時は、出版年以外の情報で検索するようにしましょう。



引用文献や参考文献の中には、図書だけでなく論文が紹介されていることもあります。論文の書誌情報の読み解き方にも慣れておきましょう。
まずは日本語論文の例です。
図書と違うのは、論文のタイトルと雑誌のタイトルという２種類のタイトルが書かれていることです。この２つをしっかり区別しましょう。
引用文献の形式は、文献を特定するための書誌情報を漏れなく書く、という大前提のもと、執筆者や出版元によって少しずつ異なっています。
ただ、おおむね論文のタイトルは前に、雑誌のタイトルは後ろに書くのが一般的です。そして論文の場合は雑誌の何巻何号の何ページ目に掲載されているか、という情報までが必要になります。

では、OPACで検索する時はどの情報を使えば良いでしょうか。
１つ覚えておいてほしいのは、OPACでは論文の著者名や論文のタイトルでは検索できない、ということです。また、年次、巻号、ページでの検索もできません。検索で使えるのは雑誌のタイトル、それから雑誌の出版社が分かっている場合は出版社名、となります。雑誌のタイトルだけでは検索結果が多くなりがちですので、絞り込み機能で雑誌に絞って検索するなど工夫しましょう。

最後は外国語論文の例です。
こちらも日本語論文とほぼ同じ情報ですが、著者が３人以上の場合に「他」を表す「et al.」 が書かれたり、雑誌のタイトルが長い場合は省略形が使われるなど、慣れが必要かもしれません。
様々な論文を読んで、少しずつ慣れていきましょう。

14

例題：引用文献の読み解き方

- 授業で演習課題資料を配布された方は、
  ここで例題を解いてみましょう。

文献がどこにあるのかを知るためには、何を使えばよいでしょうか。
阪大生の皆さんに、まず最初に調べてほしいのは大阪大学の蔵書検索です。
OPACと書いて、オーパックと読みます。
OPACでは、大阪大学で利用できる紙の資料のほか、電子ジャーナルも検索することができます。
「Osaka U.（大阪大学で本文を探す）」アイコンについては、便利な機能として後程ご紹介します。

他にも箕面市立図書館の蔵書検索や、他大学の蔵書をまとめて検索できるCiNiiBooks、国立国会図書館の蔵書検索（NDLオンライン）などがあり、いずれもインターネット上で無料で使うことができます。

では、OPACという蔵書検索システムを使って図書館の文献を探していきましょう。
大阪大学附属図書館のWebサイトの蔵書検索タブでキーワードを入力し、検索します。
検索結果が多すぎる場合は、いくつかのキーワードを組み合わせて検索しましょう。
逆に少なすぎる場合、何もヒットしない場合は、キーワードを一般的な言葉や、より広い概念の言葉に変えて検索します。
他のキーワードが思いつかない場合は、辞書を調べたり、先生や図書館に相談しましょう。

【大阪大学附属図書館Webサイト】
https://www.library.osaka-u.ac.jp/

検索結果の一覧を見ていき、気になる図書の詳細画面を開いてみましょう。
図書のタイトルや著者の名前といった情報と、その図書がどこにあるかという情報が書かれています。
この図書を読みたい、と思ったら、配架場所でどの図書館のどのエリアにあるかということと、請求記号をメモして探しにいきます。
貸出中の場合は、予約しておくと返却された時に優先的に借りることができます。
また、他のキャンパスの図書館にあって直接行くことが難しい場合は、外国学図書館に取り寄せることもできます。

世の中には様々なデータベースがありますが、大阪大学OPACもデータベースの一種です。
OPACには、ここに表示されている図書のタイトル、著者名、シリーズ名、出版者、出版年、図書のページ数や大きさ、本文が何の言語で書かれているかといった情報が
データとして収録されています。
こうしたデータのうち、キーワード検索の対象となるのが、引用文献の読み解き方で紹介した「図書のタイトル、著者名、出版者」などです。
出版年も、データとしては入っていますが、キーワード検索の対象ではないため、ヒットしなくなってしまいます。
データベースごとに、登録されているデータの種類や、検索に使えるキーワードが異なるので、思うような結果が出ない場合には、データベースの仕組みを調べてみると、原因が分かるかもしれません。

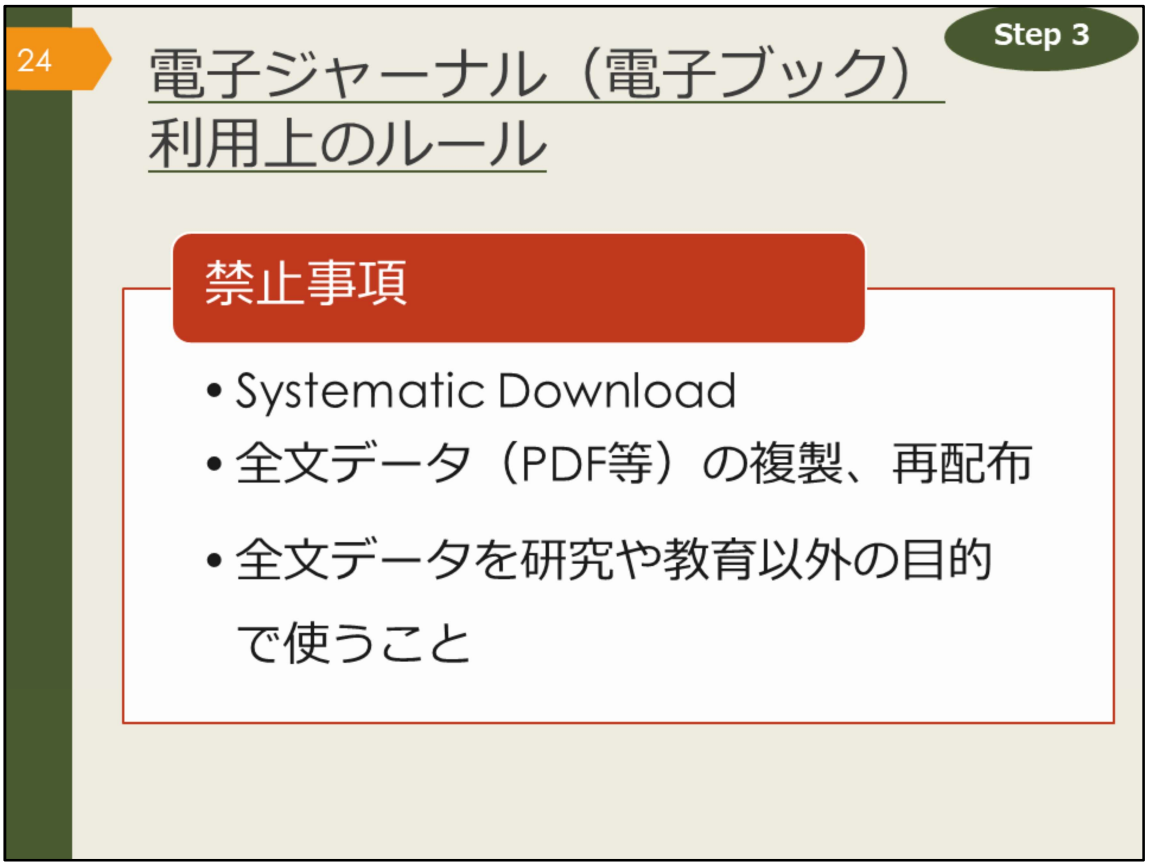
阪大OPACには図書の内容、テーマで探す機能が２つありますので紹介します。
詳細画面の下の方に「件名（けんめい）」という項目があります。
これは、その図書の主なテーマを、一定のルールに基づいて言葉で表したものです。
中には件名が付いていない図書もありますが、件名がある場合は、リンクをクリックするとそのテーマに関連する図書を再検索できます。
検索したキーワードがタイトルに含まれていなくても、内容が関連するものを検索するための仕組みです。

もう一つのテーマで探す機能は、配架場所や請求記号が書かれている枠の右の方にあります。
「隣の本」というアイコンです。
これは、図書館の本棚をバーチャルで確認できる機能です。
図書館では、関係のあるテーマの図書が近くに並ぶよう分類、整理しているため、この機能を使うと、興味のある図書を見つけやすくなるでしょう。

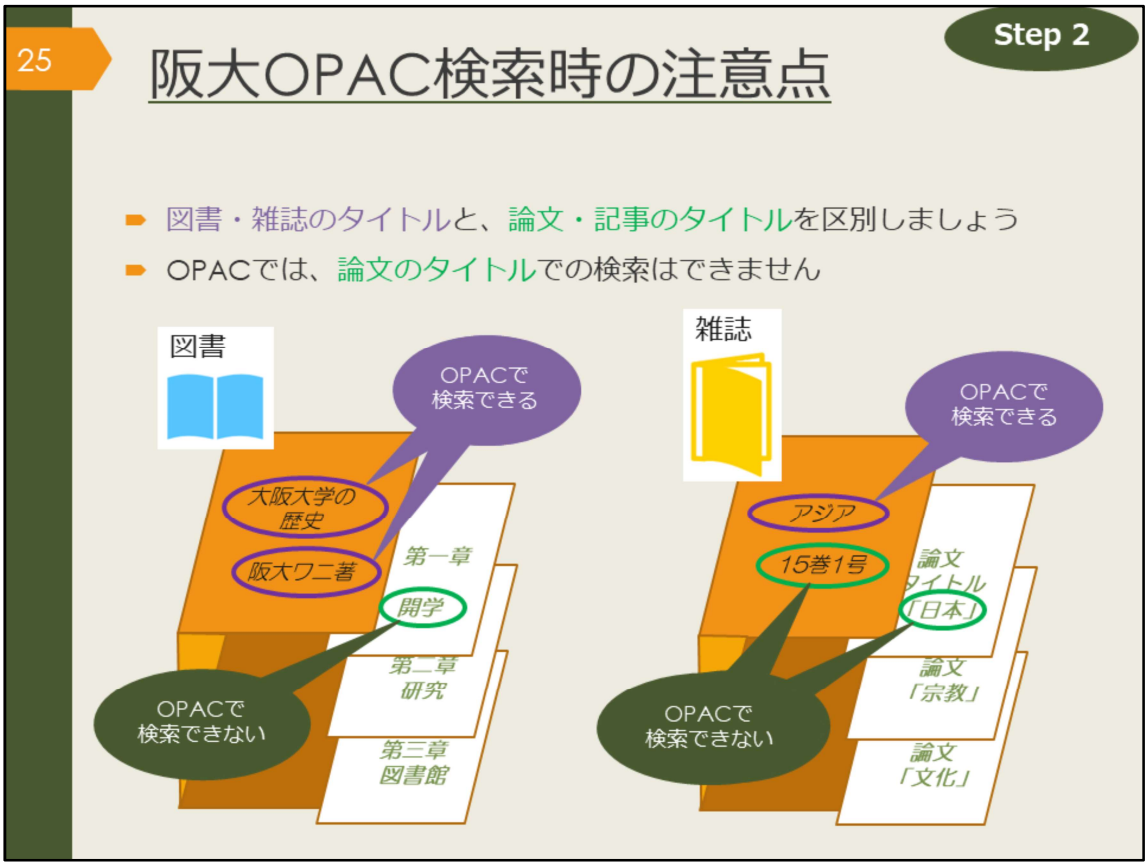
雑誌論文を読むために、OPACで雑誌を検索してみましょう。
雑誌を探すために必要な情報は、配架場所と所蔵巻号の欄に書かれています。読みたい論文が載っている巻号は、どこで所蔵しているか、確認しましょう。
外国学図書館にある雑誌は、最新号以外は１週間の貸出が可能です。
ただ、図書と違い、雑誌は他キャンパスから取り寄せることができません。読みたい論文が決まっている場合は、有料ですが論文のコピーを取り寄せることができます。
雑誌をまるまる読みたい、という場合は、それぞれの図書館に直接行けば、読むことができます。
ただ、雑誌はそもそも貸出できなかったり、一時持ち出ししかできなかったりするので、基本的には必要な論文をコピーしてすぐ返却する、という使い方になります。

雑誌の場合も、図書と同様に雑誌のタイトル、出版者、出版年、大きさ、本文が何の言語で書かれているかといった情報がデータとして収録されています。
ただ、キーワード検索の対象となるものが少なく、「雑誌のタイトル、出版者」くらいでしか検索できません。
ISSNという、雑誌の識別番号もデータ登録されているので、それを知っている場合には、検索キーワードとして使えます。
「所蔵巻号」のデータは、残念ながら検索対象ではないため、巻号を入力してもヒットしません。
また、雑誌の中に収録されている論文一つ一つのデータも、OPACには登録されていないため、論文のタイトルや論文の著者名ではヒットしません。

OPACで検索していると、「e」マークの資料がヒットすることがあります。これはオンラインで使える資料であることを表していて、電子ジャーナルや電子ブックと呼んでいます。それぞれ資料へのリンクがついているので、すぐに読むことができます。
電子ジャーナルの場合は、創刊号から最新号まで全部が見られるとは限らないので、巻号欄の利用可能な範囲を確認するようにしましょう。
阪大の学内ネットワークでアクセスすると、阪大が契約している電子資料の全てを使うことができますが、一部の資料は、KOANのIDで認証を経れば、自宅からも利用できます。



図書館で資料を借りる時は、汚したり破いたりしないように気をつけたり、著作権法などのルールを守って使うのと同じように、電子ジャーナルや電子ブックの利用にも出版社との取り決めで定められたルールがあります。ここに挙げた、禁止事項となる行為はしないよう、注意しましょう。
Systematic Downloadとは、自動ダウンロードソフト等を利用して、あるいは手動で、大量のファイルを短時間にダウンロードすることです。短い時間で論文をやみくもにダウンロードすることは控えましょう。
また、有料・無料に関係なく、ダウンロードした全文データをコピーして他人にあげたりしないようにしましょう。
違反があった場合は、違反者だけでなく、大阪大学全体で電子資料の利用が停止される可能性があります。



OPACで検索する時の注意点をおさらいします。
探そうとしている文献が、１冊の図書なのか、雑誌に掲載された論文なのかをまず把握しましょう。
その上で、図書の場合はタイトルや著者名で検索し、雑誌論文の場合は雑誌のタイトルで検索するようにしましょう。
また、阪大OPACでは、阪大の図書館に所蔵していない資料はそもそも検索できません。
検索してもヒットしなかったり、自分の検索に自信がなかったりしたら、一緒に考えますので、気軽に図書館へ相談してください。

26

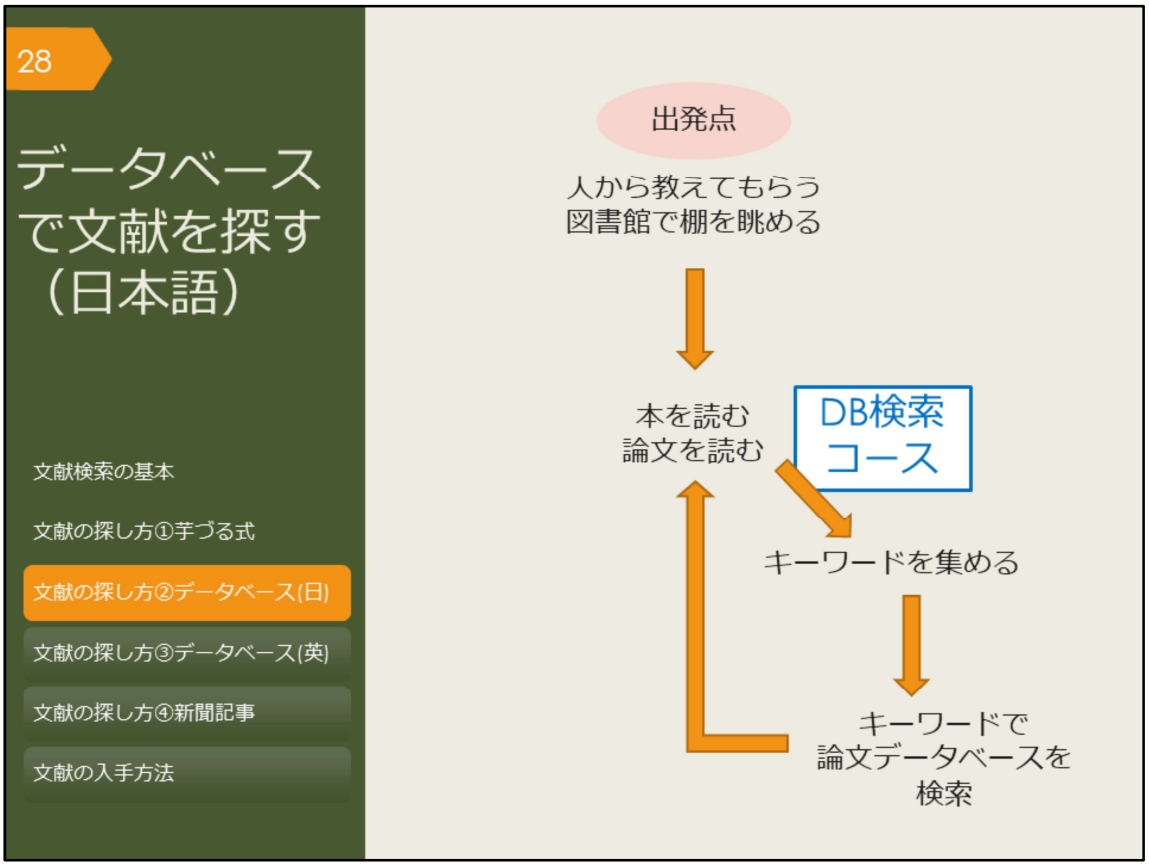
例題：OPAC検索

- 授業で演習課題資料を配布された方は、
  ここで例題を解いてみましょう。

27

演習：OPAC検索

- 授業で演習課題資料を配布された方は、
  ここで課題を解いてみましょう。



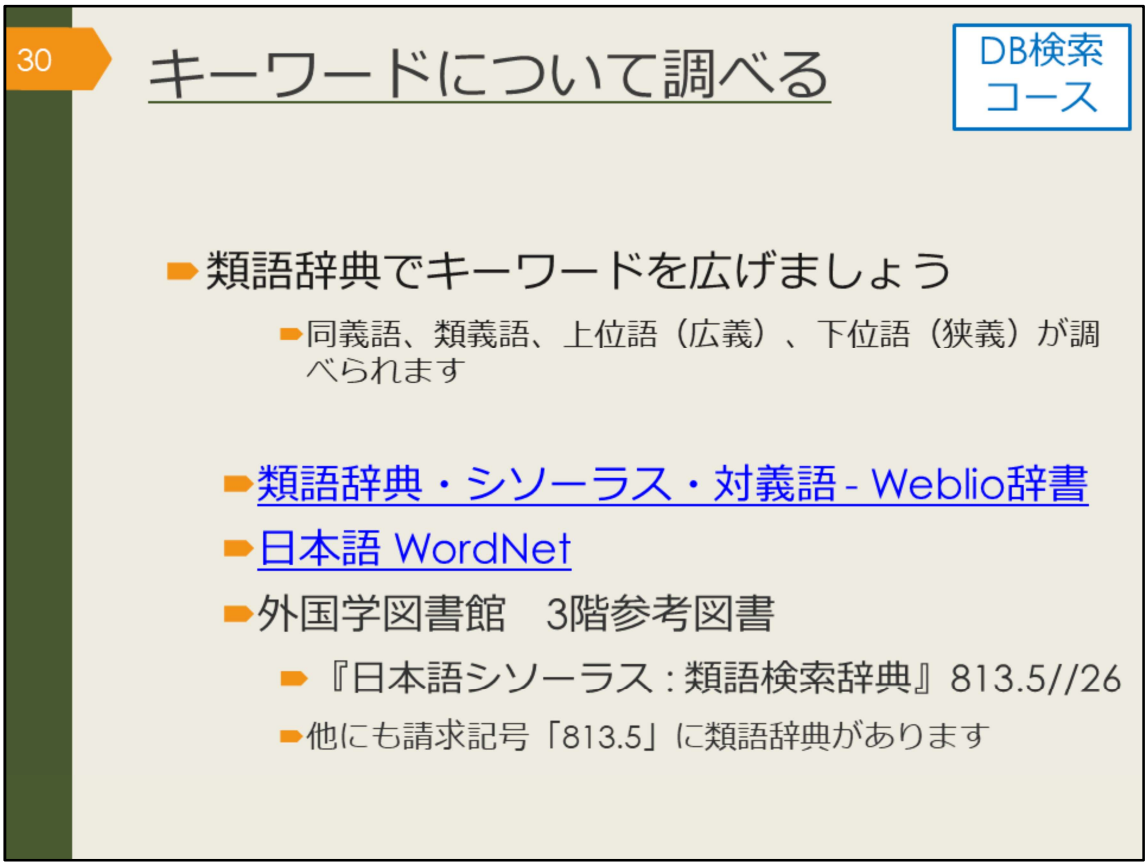
では次に、データベースで文献を探す方法を紹介します。

データベースを検索する準備として、本を読んで得たキーワードについて、一度辞書を使って調べてみましょう。ここでは阪大で使えるオンライン辞書と紙の辞書を紹介します。
Japan Knowledge LibとOED Oxford English Dictionaryは阪大が契約しているオンライン辞書です。阪大の学内ネットワークで使える他、自宅からでもKOANのIDとパスワードで認証を経れば使うことができます。日本語のキーワードならJapan Knowledge Libを、英語ならOEDを使って調べましょう。
他の専攻語の辞書や、分野ごとの専門用語は、紙の辞書を使って調べましょう。図書館Webサイトの参考図書紹介ページでは、各分野の専門辞典や、外国語学部の先生がおすすめする語学辞書を紹介しています。
また、外国学図書館3階参考図書コーナーには、百科事典も多く置いています。「言語学百科事典」「世界民族百科事典」「世界格差・貧困百科事典」など、テーマに近い百科事典があればキーワードで調べてみましょう。特にキーワードが思いつかない場合も、面白そうだと思う事典があれば、中身をめくってみると思わぬ発見があるかもしれません。
こうした辞書や百科事典には、項目を作成する時に参考にした文献が紹介されていることがあります。そこで紹介されている文献を読めば、キーワードについてさらに詳しく知ることができるでしょう。

【Japan Knowledge Lib】
https://login.remote.library.osaka-u.ac.jp/login?url=https://japanknowledge.com/library/

【OED Oxford English Dictionary】
https://login.remote.library.osaka-u.ac.jp/login?url=http://www.oed.com/

【各分野の事典や語学辞書】
https://www.library.osaka-u.ac.jp/research_intro1/

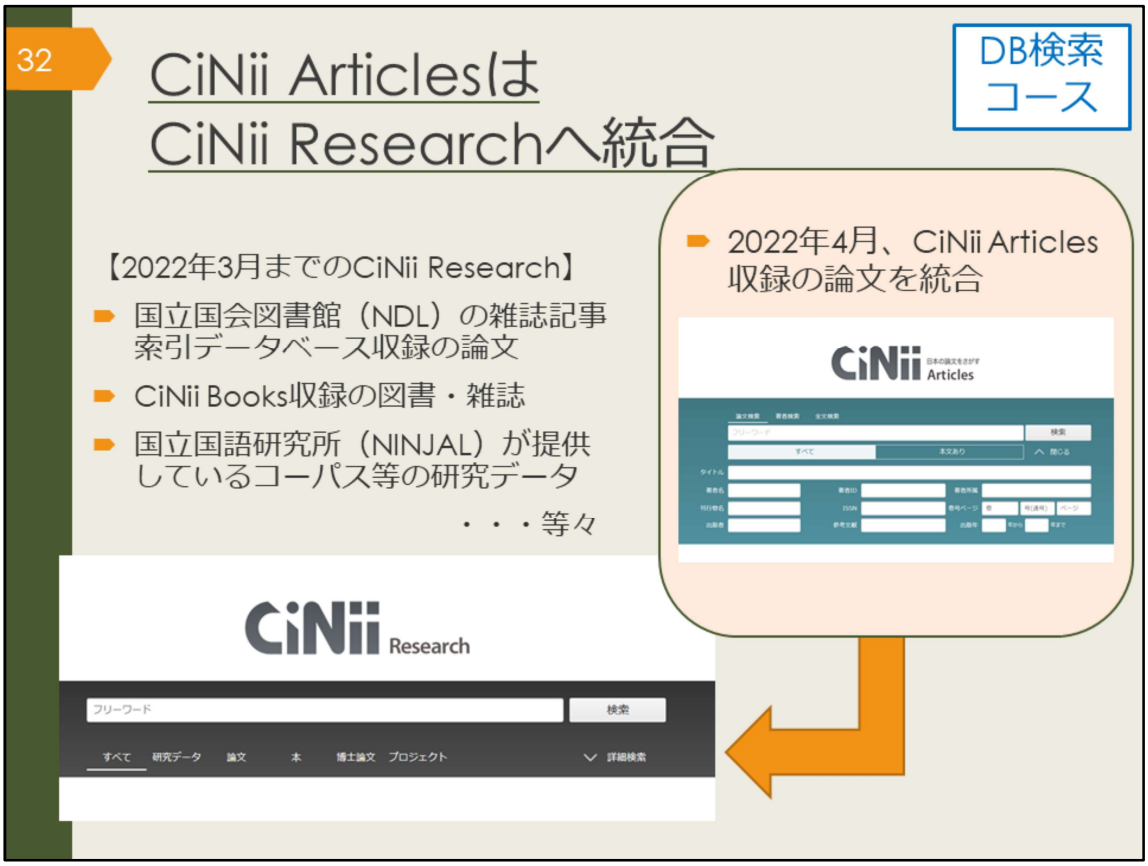


類語辞典を使うと、同じような意味の他のキーワードを得ることができますし、より広い概念の言葉（上位語）や、狭い概念の言葉（下位語）も調べられます。こうした下調べは、後々のデータベース検索で役立ってきます。
インターネット上で使える類語辞典もありますので、うまく活用してください。

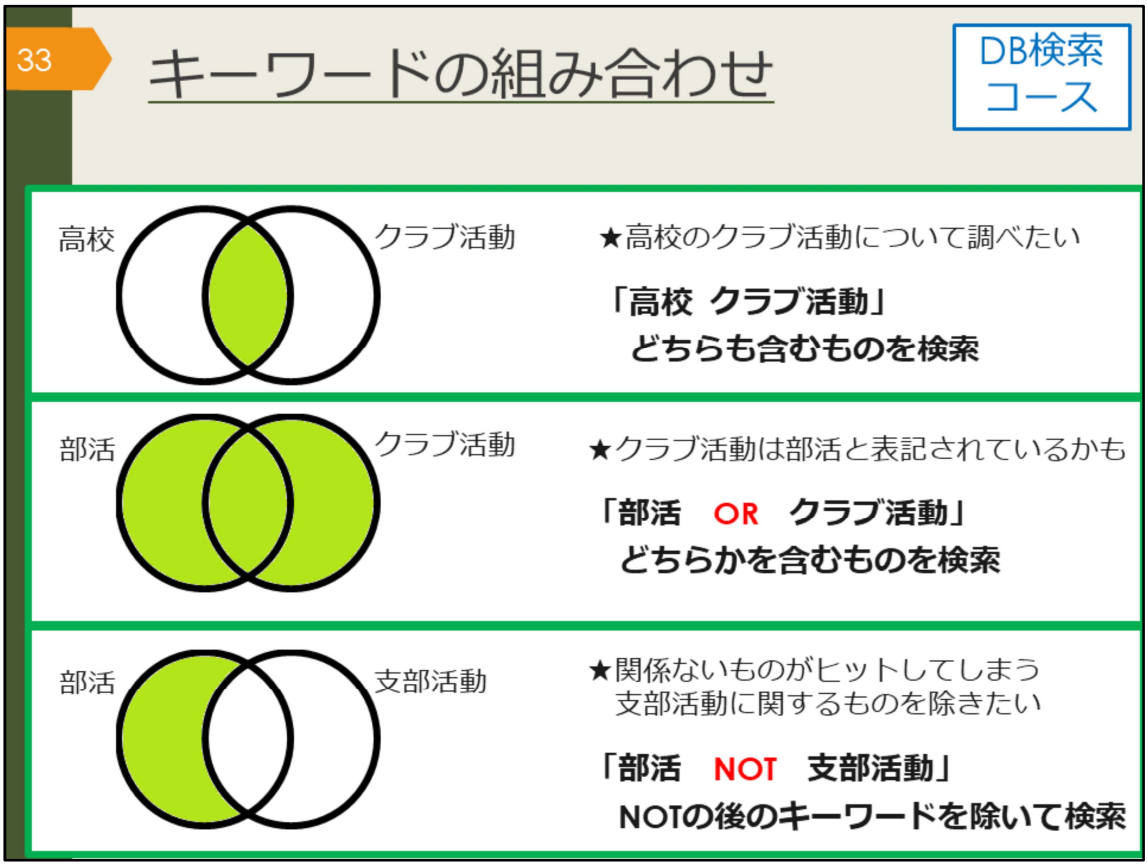
【類語辞典・シソーラス・対義語 - Weblio辞書】
https://thesaurus.weblio.jp/

【日本語 WordNet】
http://compling.hss.ntu.edu.sg/wnja/

それでは、CiNii Researchというデータベースを使って、論文を探してみましょう。
CiNii Researchでは日本語の論文を探すことができます。
これまでに集めたキーワードを検索ボックスに入力し、検索します。
自分が知りたいことが書かれている論文は、タイトルや論文の要旨にどんな言葉が使われるだろうかと想像しながら検索するのがコツです。



CiNii Researchには、2022年3月まであったCiNii Articlesという日本語論文検索データベースに収録されていた論文が含まれています。
また、論文だけでなく、図書や学位論文、科研のプロジェクト情報なども収録されています。



ほとんどのデータベースでは、キーワードを組み合わせて検索することができます。
AND検索は、スペースでつないだキーワード全てを含むものを検索します。阪大OPACやGoogle検索でも皆さんがよく使う方法です。
OR検索は、ORでつないだキーワードのいずれかを含むものを検索します。検索結果は、AND検索よりも多くなります。
NOT検索は、NOTの直後のキーワードを除いて検索する方法です。

たとえば、漢字とカタカナなどの表記の揺れがあったり、同じ概念の言葉が複数考えられるなど、一つのキーワードでは検索結果が少ない場合はOR検索をした方がよいでしょう。
まったく関係のない言葉で論文がヒットしてしまうなど、検索結果が多い場合はAND検索やNOT検索で検索結果を減らすことを考えてみましょう。

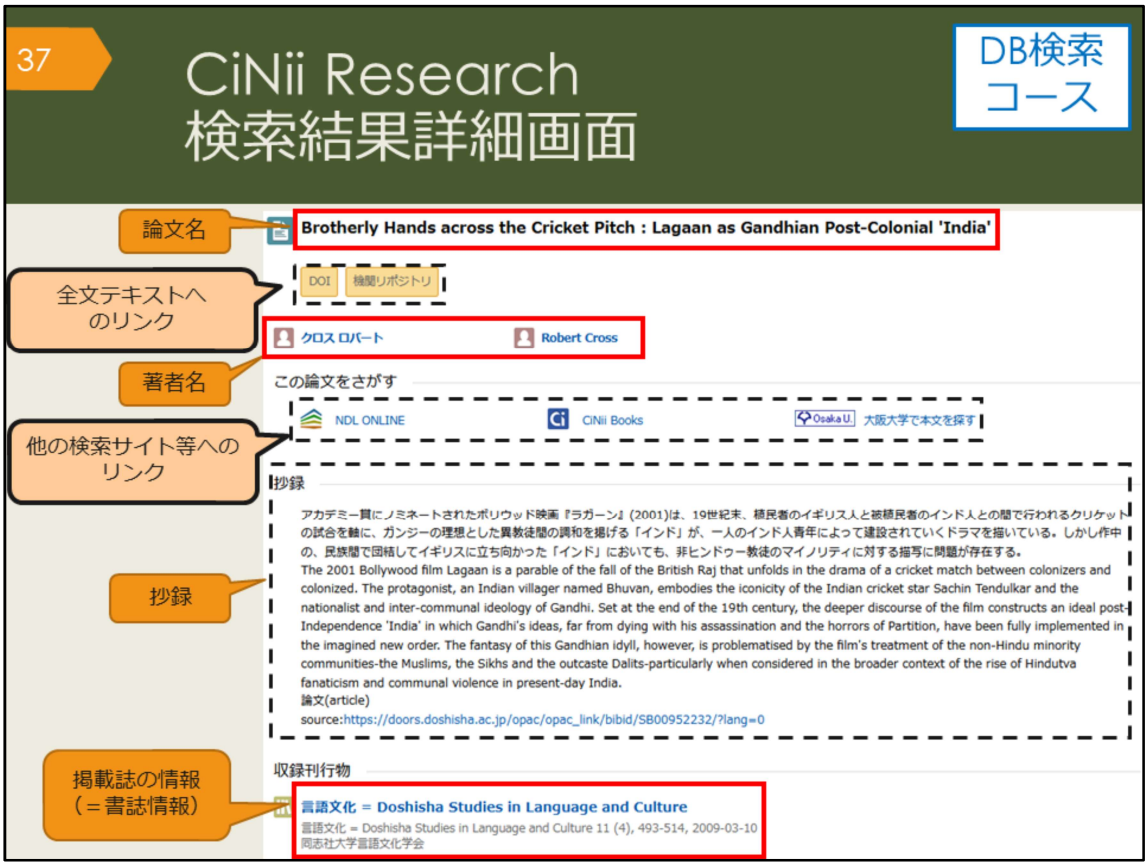
CiNii Researchへのアクセス方法は、附属図書館Webサイトから、図のようにしてアクセスできます。

【大阪大学附属図書館Webサイト】
https://www.library.osaka-u.ac.jp/

自宅からCiNii Researchを検索する場合は、附属図書館Webサイトの「キャンパス外から電子リソースを使う」というページからアクセスしてください。データベースの便利な機能を学内と同じように、自宅でも使えます。
CiNii Researchは無料のデータベースですが、大阪大学と連携して、検索結果から阪大で契約するデータベースにリンクしたり、阪大OPACにリンクするなどの便利な機能をつけています。大学のネットワークであればそのまま使用できますが、自宅から便利な機能を使用するには、この方法でアクセスする必要があります。
便利な機能については、あとのスライドで説明します。

イギリス、クリケットというキーワードで検索した、検索結果一覧画面です。
検索結果に、論文名、著者名、掲載誌の情報、抄録、本文入手へのナビゲーターが表示されます。

タイトルの左にあるアイコンは、その文献の種類を表しています。
CiNii Researchでは、論文の他に、図書や博士論文、科研のプロジェクト情報なども検索することができます。
論文だけを探したいときは、データ種別で「論文」に絞り込むと良いでしょう。



こちらは、検索結果一覧のうち、1件の論文をクリックした後の詳細画面です。画面の上から、論文名、論文にアクセスするためのリンク、著者名、この論文をさがすためのリンク、抄録（しょうろく）、掲載誌の情報、が表示されています。抄録は、論文の内容を簡単にまとめたものなので、この部分を読んで、本文を読む必要があるかどうか判断することができます。

ここで、CiNii Researchに搭載されている便利な機能を紹介します。
論文情報の下に表示されている、「大阪大学で本文を探す」のアイコンをクリックすると、
・大阪大学が契約するデータベースで、本文が見られるかどうか、
・大阪大学で、その論文が掲載された雑誌を所蔵しているかどうか
・大阪大学以外で、その論文が掲載された雑誌を所蔵している図書館があるかどうか、それぞれの結果が一覧できます。
阪大で入手できない場合は、「学外からの文献取寄せ」のリンクから、論文の取り寄せ申込みをすることができます。

データベースを検索した結果、わずかな論文しかヒットしないことがあります。

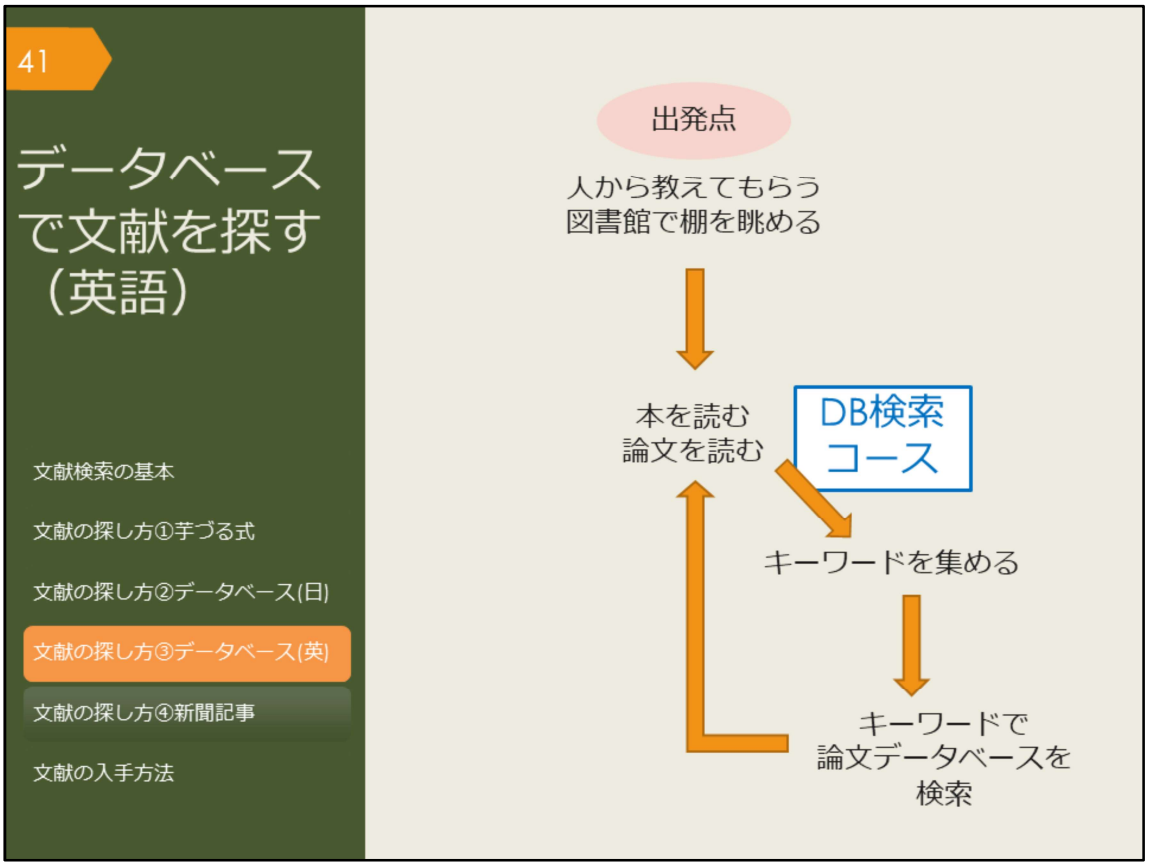
例えばこちらはCiNii Researchで「イタリア　近世　絵画」を検索した結果です。
→「論文」5件

そのような場合、OR検索で検索対象を広げてみましょう。
同義語をORでつないで()でくくります。

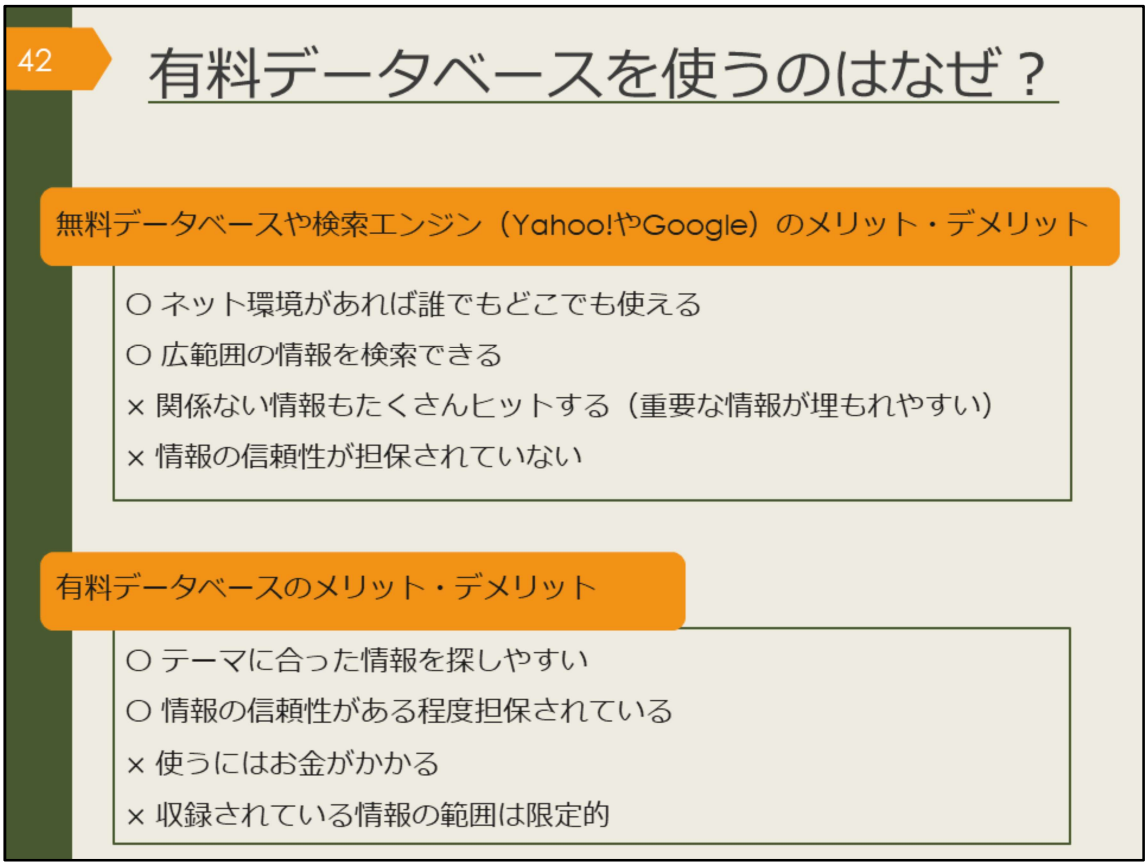
ANDはスペースでもOKです。

イタリア　（近世 OR 17世紀 OR 18世紀 OR　バロック）　絵画
→「論文」21件

（イタリア　OR ヴェネツィア OR ベネチア）（近世　OR 17世紀 OR 18世紀 OR バロック）（絵画 OR 画家）
→「論文」29件

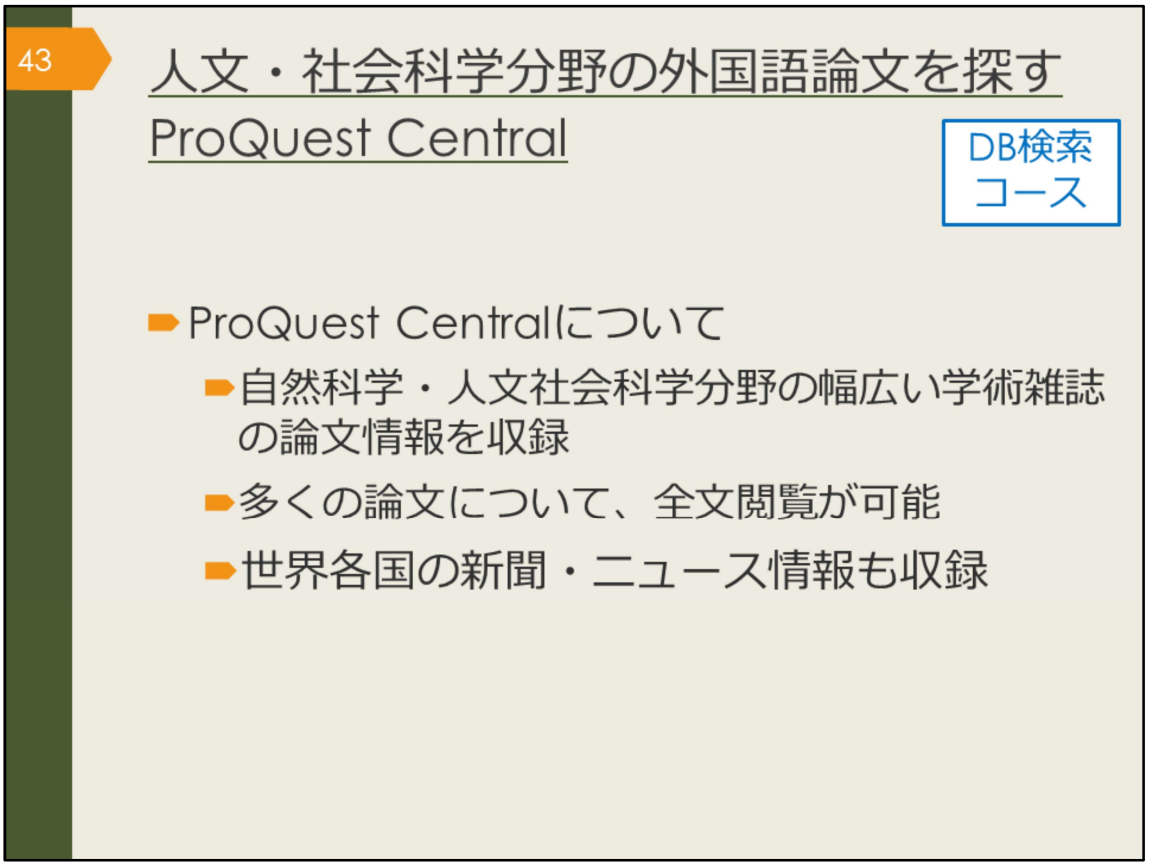


では次に、データベースを使って英語論文を探す方法を見ていきましょう。



これから紹介するのは、大阪大学が有料で契約することで学生の皆さんが使えるようになっているデータベースです。
ではなぜ、有料データベースを使うのでしょうか。また、無料データベースを使うことはどうなのでしょうか。
この図には、それぞれのメリットとデメリットを明記していますので、ご自身で考えてみてください。

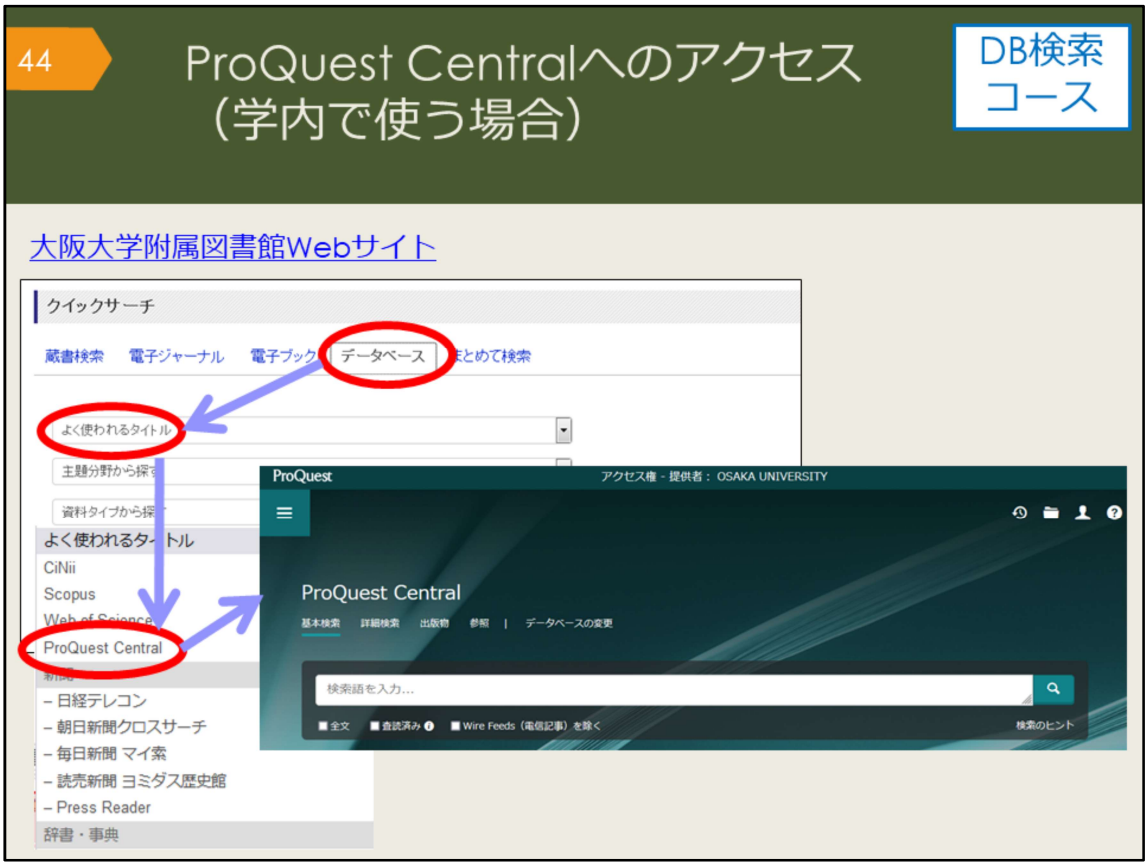
プライベートで知りたいことを手軽に検索するときは、無料のデータベースや検索エンジンを使う方が手っ取り早いですね。
一方で、授業の単位取得に関係するレポートや、卒業判定がかかっている論文に使う情報を検索する場合はいかがでしょうか。
Googleは個人ブログやつぶやきレベルの情報から辞書レベルまで広範囲の情報をまとめて検索します。出てきた情報が信頼できる情報なのか、最新情報なのか、全て自分で判断する必要があります。それは、感想文なのか論文なのかを読んでから判断するようなものです。
有料データベースは最初から信頼性の高い学術情報に絞られているため、比較的安心して自分の論文にその情報を利用できます。データベースの特性を知ったうえで、場合に応じて、上手に使い分けましょう。



ここから、外国語の論文データベース、ProQuest Centralを紹介していきます。

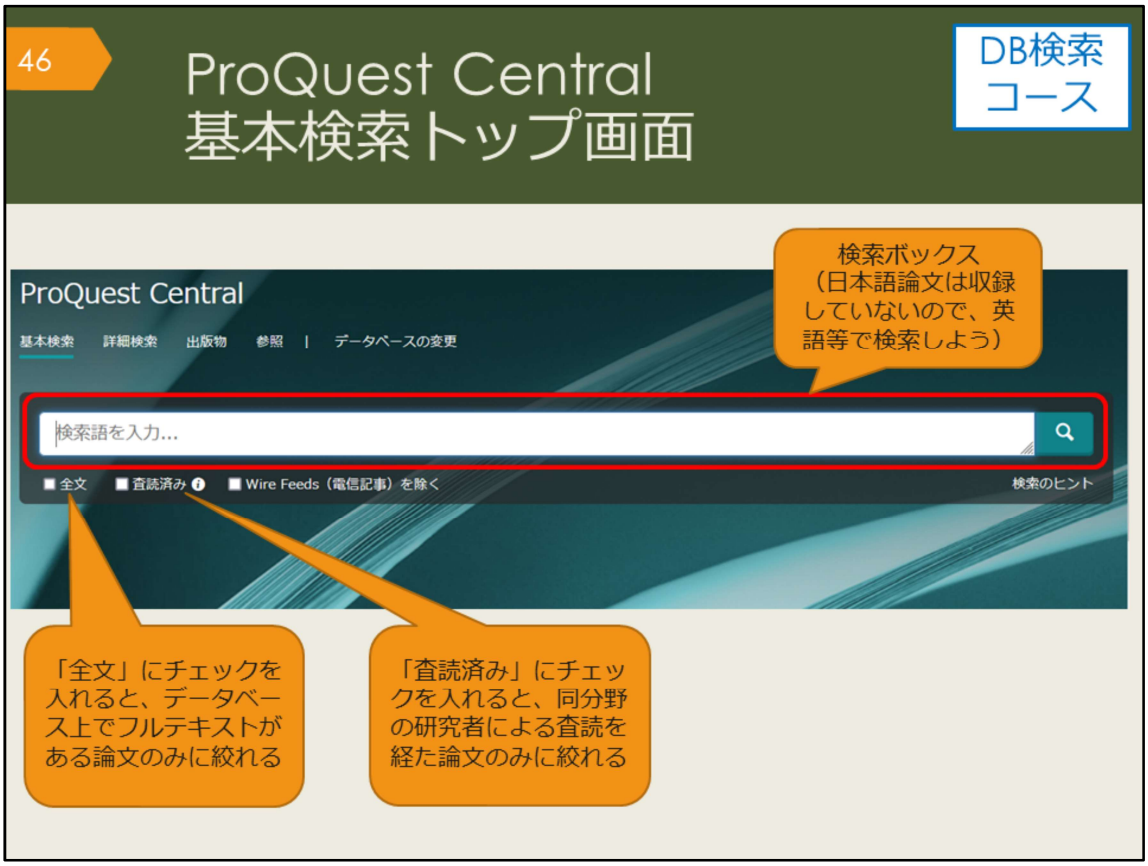
ProQuest Centralは自然科学・人文社会科学分野を網羅する世界最大級の学術文献データベースで、25,000タイトル以上の学術雑誌を収録し、このうち20,000以上のタイトルについては本文も読むことができます。
有料のデータベースですが、大阪大学として利用契約を結んでいるため、皆さんは自由にお使いいただけます。

※数値は紀伊國屋書店Webサイトより
https://mirai.kinokuniya.co.jp/catalog/proquest-central



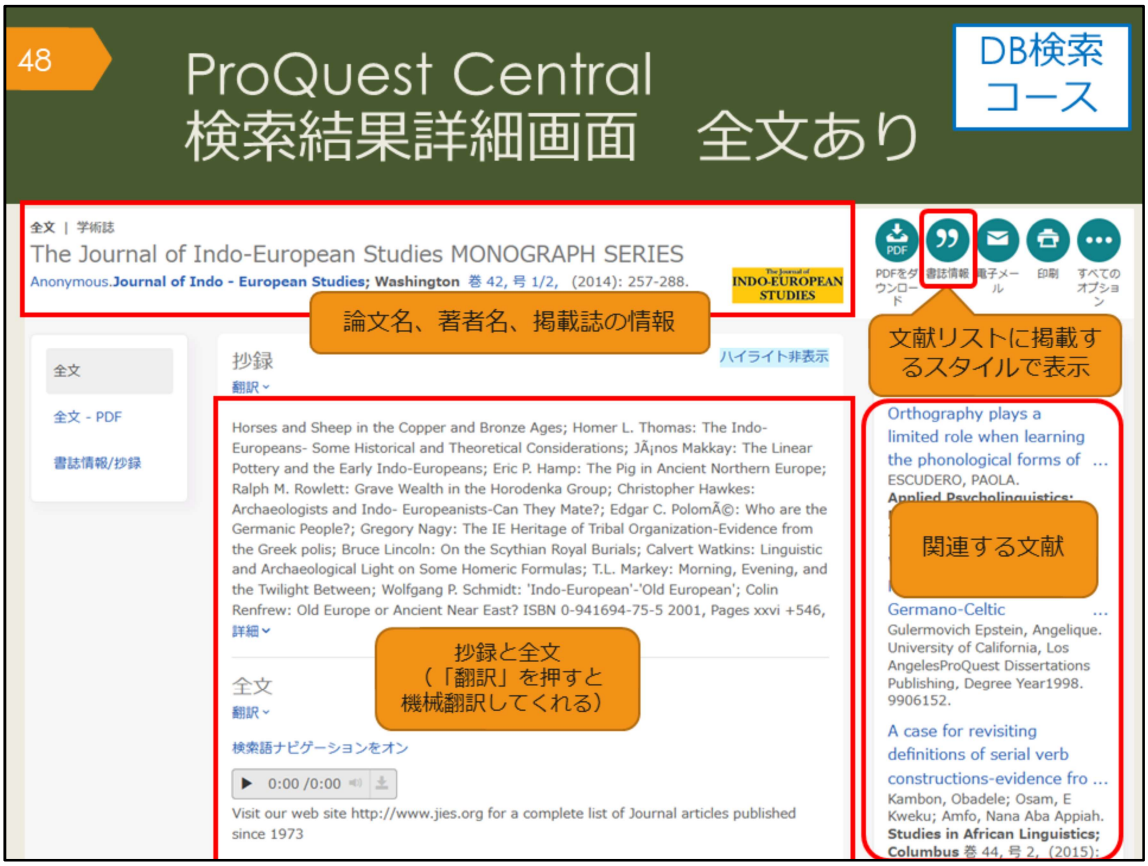
ProQuest Centralは、附属図書館Webサイトから、図のようにしてアクセスできます。

自宅からProQuest Centralを検索する場合は、附属図書館Webサイトの「キャンパス外から電子リソースを使う」というページからアクセスしてください。



こちらが基本検索の画面です。
検索ボックスの下にチェックボックスがいくつかありますね。その一つの「査読（さどく）済み」にチェックを入れると、査読を経た論文のみに絞って検索することができます。
査読とは、ある学術雑誌に投稿された論文が、その雑誌に掲載し、広く世の中に発表するのにふさわしい内容かどうかを、同じ分野の研究者がチェックする仕組みのことです。
査読済みの論文は、研究者からも一定の評価を得ているということになるので、より信頼性の高い論文だと言えるでしょう。

こちらは、Derivation, Persian, noun というキーワードで検索した時の検索結果一覧です。検索キーワードがハイライト表示されています。
CiNii Researchと基本は同じですが、検索結果の絞込みオプションの機能が充実しているのが特徴です。
ProQuest Centralでは、全文が収録されている論文の場合は、「全文」のリンクが表示され、直接本文を見ることができます。
全文が収録されていない場合は、「Osaka U.」のアイコンが表示され、ここから他のデータベースで全文が見られないか、図書館に所蔵がないかを、簡単に調べられるようになっています。



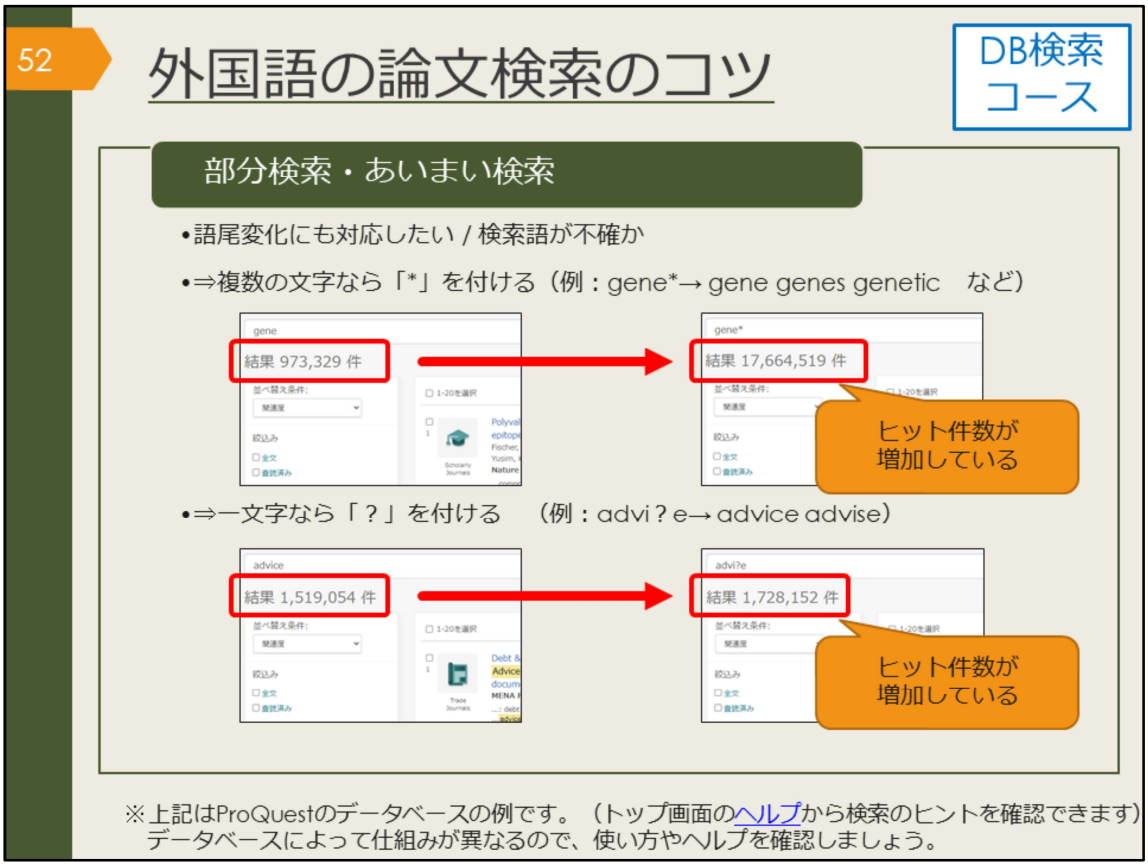
こちらは検索結果一覧から、1件の論文をクリックした後の、詳細画面です。
文献情報の記載などはCiNii Researchと基本は同じです。
右上部の「書誌情報」アイコンをクリックすると、引用文献リストに掲載するスタイルを表示してくれるので、そのまま文献リストにコピーして貼り付けることができます。
論文はPDFでも入手できますが、ブラウザ上でテキスト全文でも表示されます。
そのほか、検索を補助する機能として、たとえば、関連のあるアイテム（論文）を表示してくれる機能があります。

ほかに、検索を補助する機能として、「インデックス用語で検索」という機能があります。
ProQuest Centralでは、論文1つ1つに論文のテーマに関するインデックスが付与されています。これを使うと、論文のテーマで検索することが可能です。
この画面のインデックス用語にチェックを入れて検索をすると、最初に入れた検索キーワードは一旦リセットされ、インデックス用語を指定した再検索が行われます。
ProQuest Centralには、検索履歴を保存する機能もありますので、ヘルプを参照し、便利な機能を使って検索を色々と試してみてください。

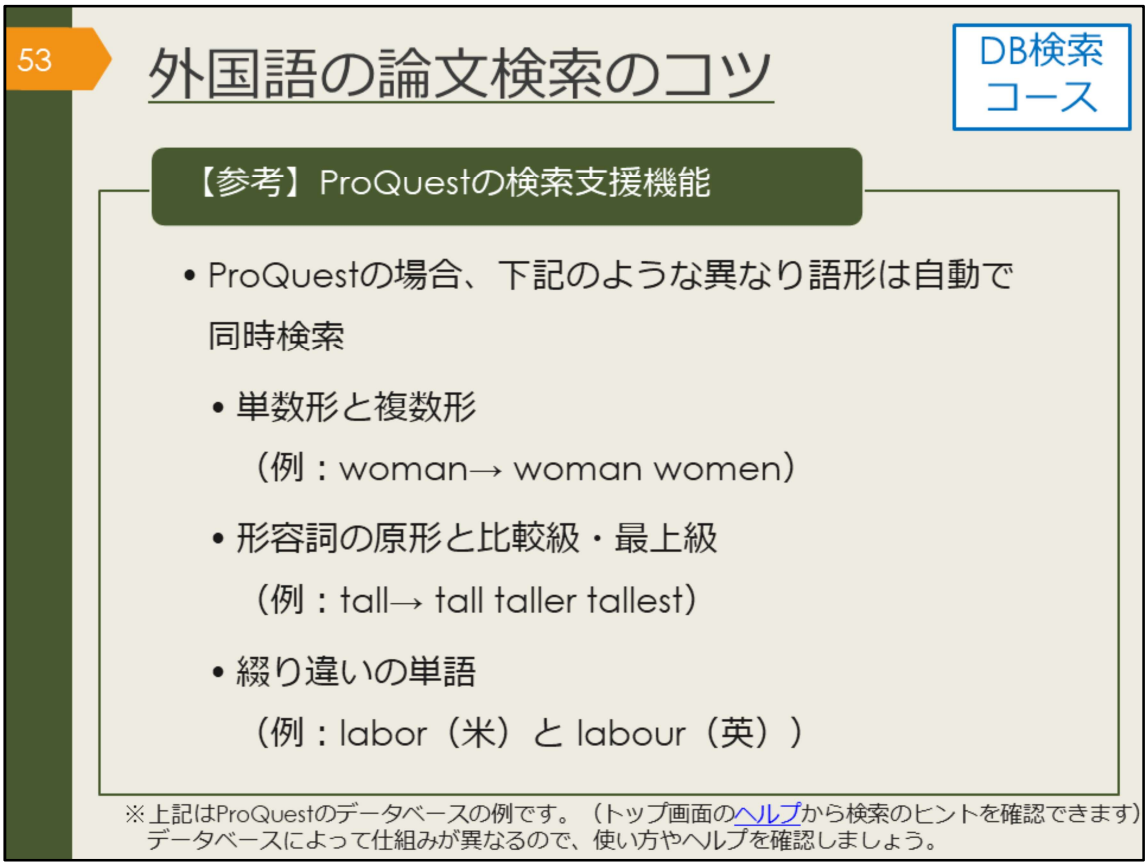
こちらは文献情報だけの場合の詳細画面です。
ProQuest Centralは論文全文が多く収録されているデータベースですが、論文が入手できない場合ももちろんあります。入手できない場合には、関連のあるアイテムから類似した資料を探す、あるいは、抄録を見て、この論文がどうしても必要であれば、「Osaka U. (大阪大学で本文を探す)」のアイコンから、阪大図書館に所蔵があるかどうかを調べる、という手順になります。

ここで、外国語論文を検索する時のコツを紹介します。
フレーズ検索は、ぜひ知っておいてください。ProQuestは膨大な量の論文情報を収録しているので、知っているのと知らないのとでは効率に大きな差が出てきます。

下記は実際にデータベース画面でデモを行いながら説明する時用のメモ。（）の中をキーワードとして検索する。
１．基本的なキーワード検索（Italy middle ages paintings）→検索結果の基本的な見方や絞込みについて説明する、よく使うAND検索
２．フレーズ検索（Italy “middle ages” paintings）→（1.と比較して）ヒット数が変化したことを示す、完全一致（フレーズ）検索の説明
３．トランケーション文字（Ital* “middle ages” paintings）→ヒット数の変化、OR検索の説明
４．主題で絞り込み（art）→単に文字列が一致するだけのものを省き、論文の中身、テーマで絞り込むこともできる



語尾が異なるケースにも対応したい場合や、検索語が不確かな場合には、部分一致のための記号を使うと便利です。
文字数を指定しない場合はアスタリスクを、指定する場合はクエスチョンマークを使って検索します。

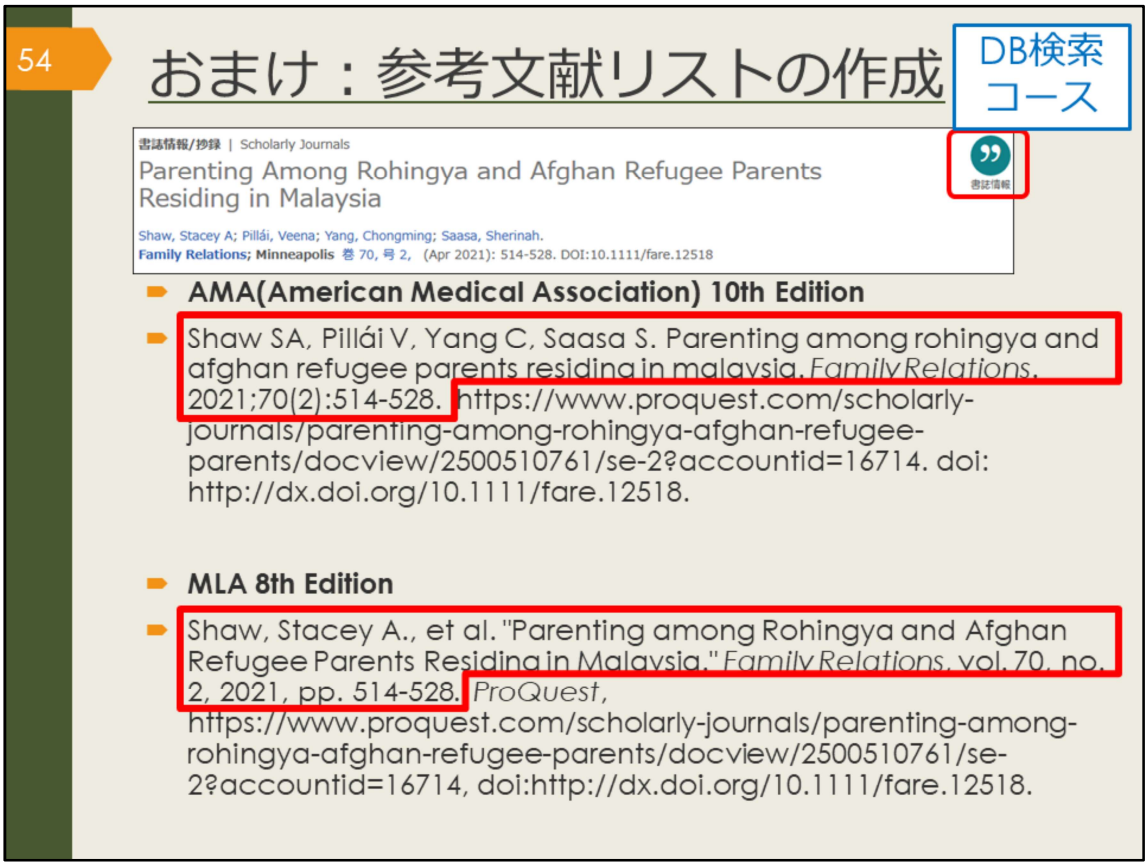


Proquestの場合、異なり語形の検索を支援するための機能がデフォルトで設定されています。

これまでお伝えしてきた検索のコツは、Proquestのヘルプページにもまとまっています。
【ProQuest ヘルプ 概要】
https://www.proquest.com/help/academic.ja-JP/webframe.html?Help_Overview.html

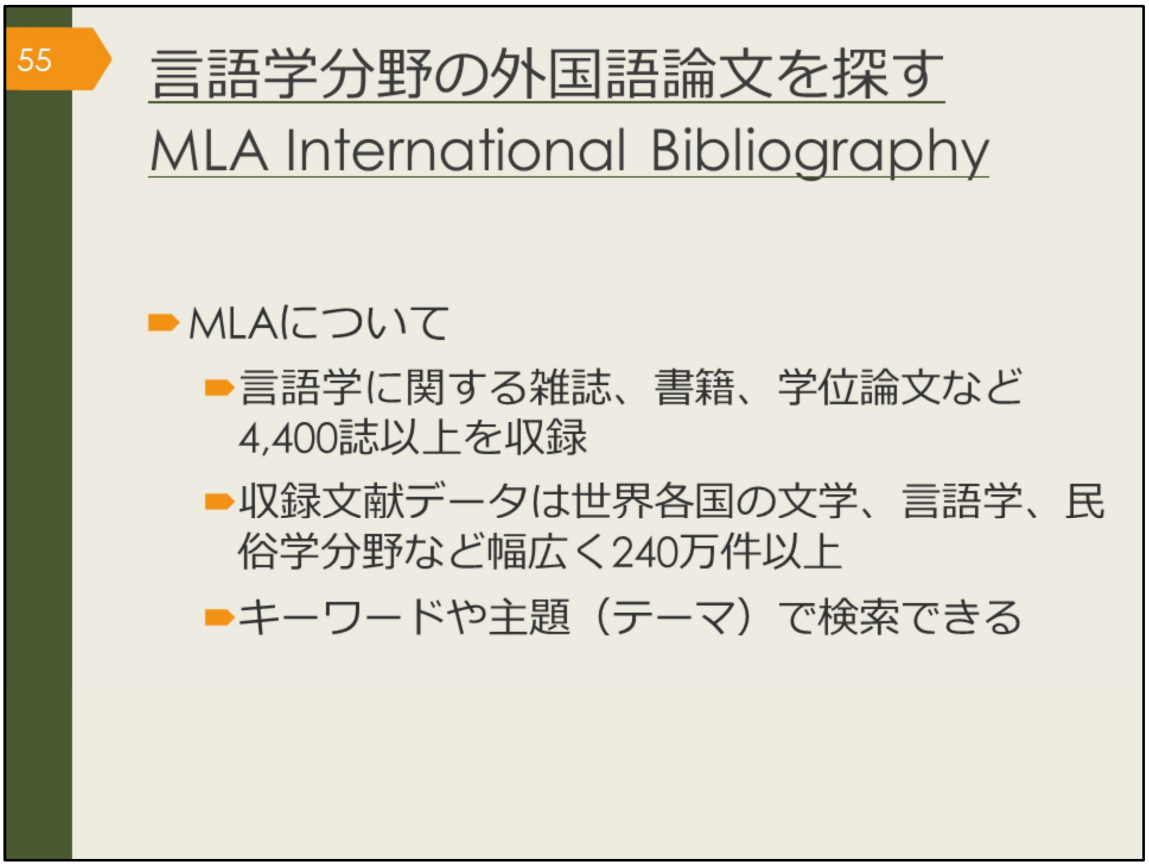
【(参考)Proquest LibGuides】
https://proquest.libguides.com/proquestplatform

なお、他のデータベースでは機能や使用する記号が異なる場合があります。思ったような検索結果が出ない場合は、ヘルプを参照してください。



参考文献リストの作成を手助けしてくれる機能を紹介します。
論文を投稿する雑誌ごとに、指定の引用スタイルがありますが、必要な情報は基本的に同じであることが分かるでしょうか。
巻号(volumeやno.)の部分などに、それぞれの引用形式の特徴が出ていますね。

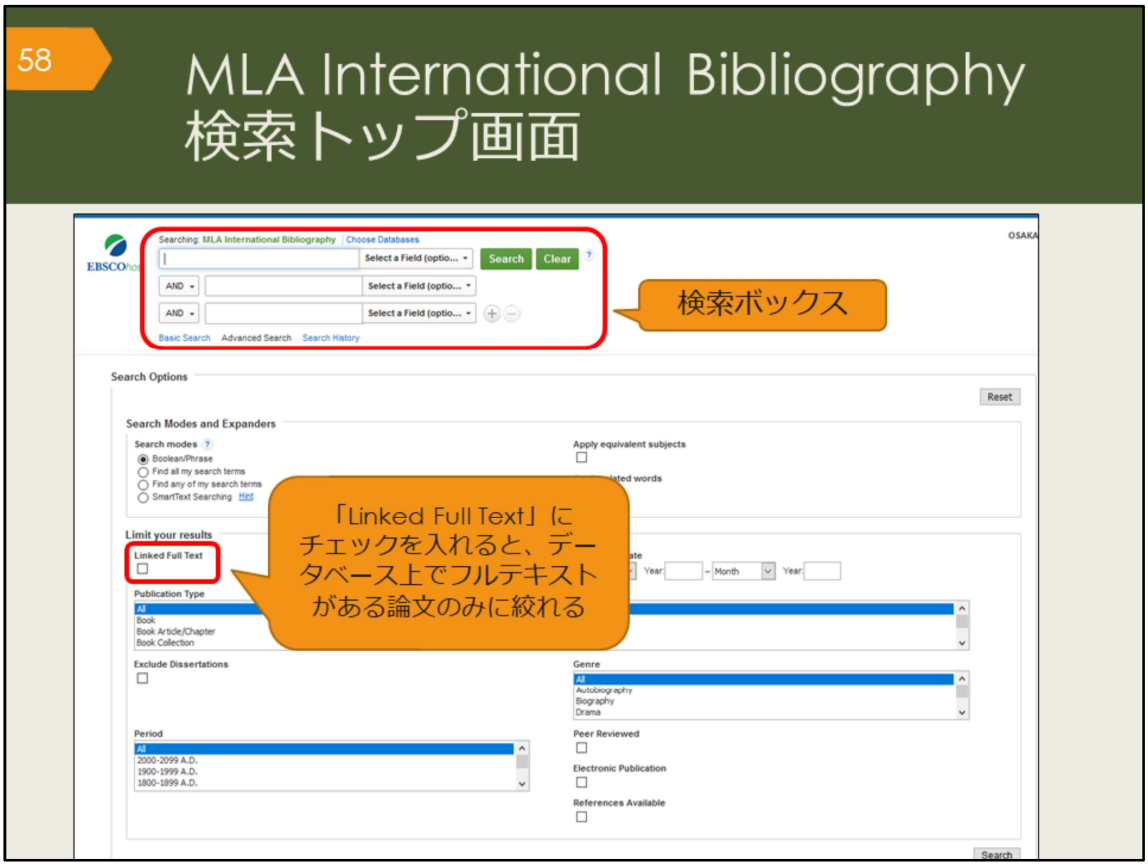
卒業論文の場合は、特定のスタイルを指定されることは少ないかもしれませんが、参考文献リストは必ずつけますし、
自分が書いた論文の中で、参考文献の書き方は一つの形式に統一する必要があります。
卒業論文を仕上げる時のために、ProQuestで見つけた論文は必ず書誌情報を保存しておきましょう。



次に、文学、言語学、民俗学分野の海外論文データベース、MLA International Bibliography　を紹介します。
MLAというのは「Modern Language Association」の略称で、アメリカの現代言語学会を指します。この分野の海外論文を探したい方は、ぜひ使ってみましょう。

MLA International Bibliography は、附属図書館Webサイトから、図のようにしてアクセスできます。

自宅からMLA International bibliography を検索する場合は、附属図書館Webサイトの「キャンパス外から電子リソースを使う」というページからアクセスしてください。



こちらはMLA International bibliographyの基本の検索画面です。
AND検索の場合は、一つの検索ボックスにスペースでつないで複数のキーワードを入力しても良いですが、せっかく検索ボックスがいくつも用意されているので、一つのボックスに一つのキーワードで検索してみましょう。プルダウンからANDやORを指定して検索することができますので、自分で論理演算子を入力する必要がありません。
また、検索ボックスの右側のプルダウンでは、著者名や論文のタイトル、抄録など、キーワードの検索対象を選ぶことができます。誰々が書いた論文だけを探したい、という場合など、検索の目的に応じて上手に活用しましょう。

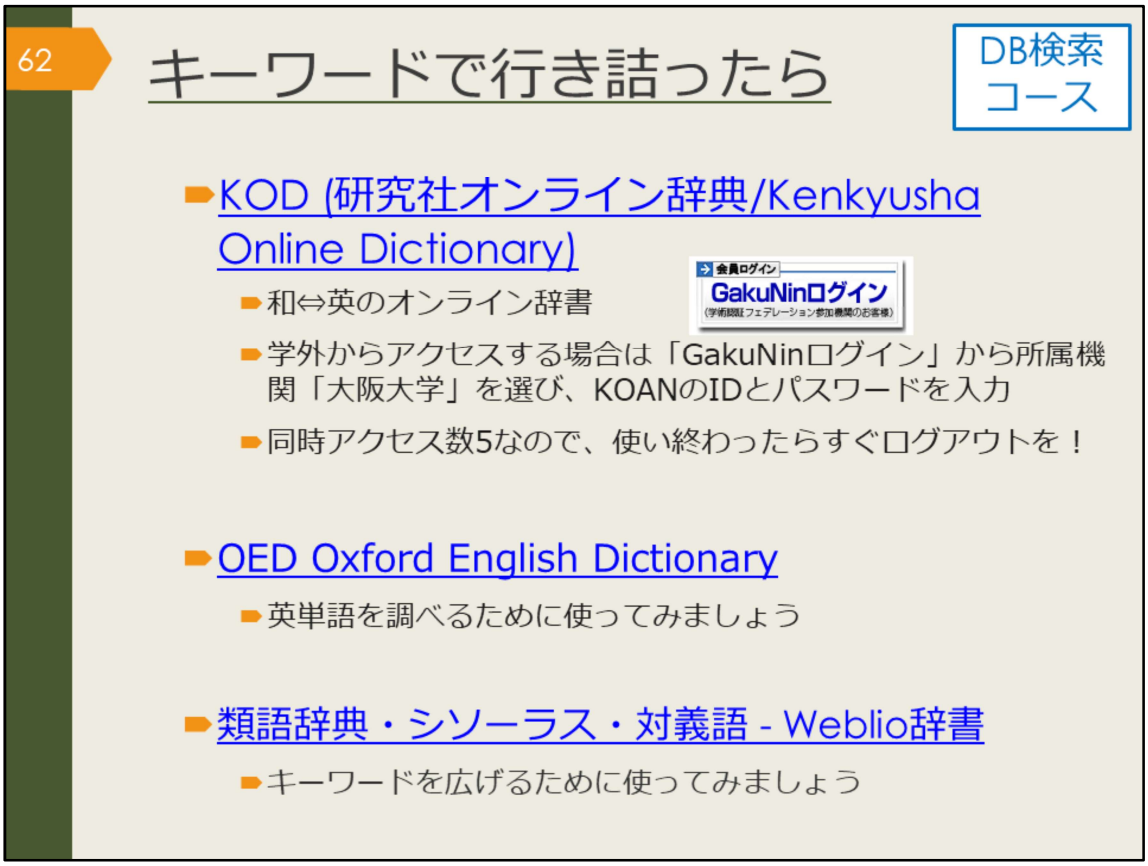
こちらはShakespeareというキーワードで検索した時の検索結果一覧の画面です。
文献の情報や「大阪大学で本文を探す」アイコン、絞り込み機能など、
ProQuest Centralとよく似ていますね。
絞り込みの例として、論文が出た年を指定することもできますので、最近の５年間で出た新しい論文のみに絞る、といったことも可能です。

検索結果一覧から、1件の論文をクリックした後の、詳細画面です。文献情報の記載などは、CiNii Researchと同じです。
このデータベースは、MLA発行の雑誌掲載論文、学位論文、書籍のINDEX・抄録データベースで、全文はほとんど収録されていませんが、大阪大学で契約するデータベースと連携し、そこから全文へのリンクをしているのが特徴です。読みたいと思う論文が見つかったら、「大阪大学で本文を探す」アイコンをクリックして入手方法を調べましょう。
また、右側の「Cite」をクリックすると、文献リストに掲載するスタイルを表示してくれます。

61

演習問題

- 授業で演習課題資料を配布された方は、
  ここで問題を解いてみましょう。



キーワード探しに困ったら、辞書を引いてみましょう。
オンラインで使える辞書をご紹介します。

【KOD (研究社オンライン辞典/Kenkyusha Online Dictionary)】
https://kod.kenkyusha.co.jp/service/

【OED Oxford English Dictionary】
https://login.remote.library.osaka-u.ac.jp/login?url=http://www.oed.com/

【類語辞典・シソーラス・対義語 - Weblio辞書】
https://thesaurus.weblio.jp/

次は、新聞記事の探し方です。
最新の情報、ある事柄の歴史的な変遷や経緯を知るには新聞記事を調べてみると良いでしょう。
紙の新聞は、外国学図書館4階新聞コーナーで読むことができます。バックナンバーは、外国学図書館で最近1年分のみ保存しています。それ以前の記事は新聞データベースで探しましょう。

【中国】
https://www.library.osaka-u.ac.jp/gaikoku/newspaper_china/

【ミャンマー】
https://www.library.osaka-u.ac.jp/gaikoku/newspaper_myammar/

【ロシア】
https://www.library.osaka-u.ac.jp/gaikoku/newspaper_russia/

【新聞を探す】
https://www.library.osaka-u.ac.jp/research_newspaper/

図書館で保管している原紙以外にもデータベースで利用できる新聞がいくつかあります。
附属図書館Webサイトから、図のようにしてアクセスできます。

65

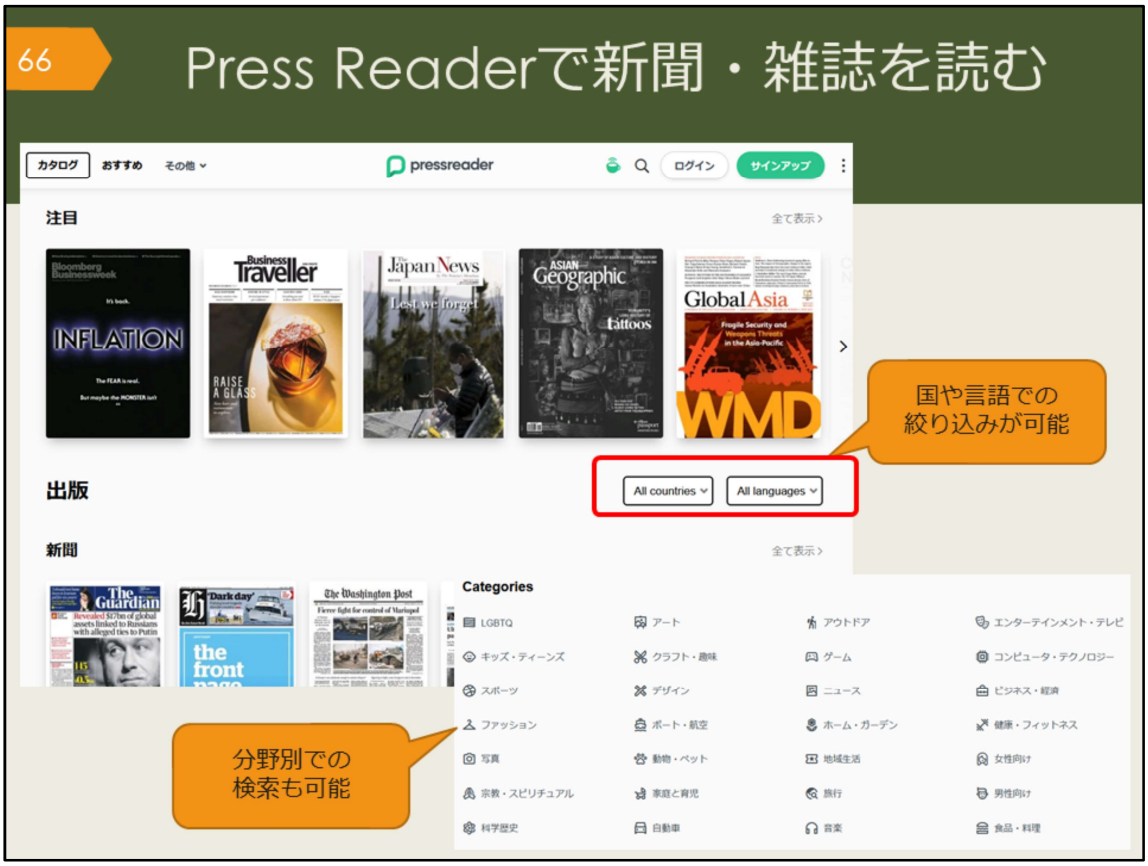
阪大契約の主な新聞データベース

	誌名	データベース名
日本の新聞	朝日新聞	朝日新聞クロスサーチ Ⓡ
	読売新聞	読売新聞 ヨミダス歴史館 Ⓡ
	毎日新聞	毎日新聞 マイ索 Ⓡ
	日本経済新聞	日経テレコン21 Ⓡ
海外の新聞	人民日報	People's Daily Ⓡ
	New York Times	New York Times collection Ⓡ
世界各国の新聞や雑誌をまとめて検索可能		ProQuest Central Ⓡ
		Press Reader Ⓡ

Ⓡマークは、リモートアクセス（学外・自宅からの利用）が可能であることを表す

阪大で使える主な新聞データベースを表にしました。収録内容や収録期間、検索対象を確認し、調べたい事柄によって使い分けましょう。
例えば、毎日新聞マイ索では、1872年創刊から1986年までは紙面のPDFイメージが収録されていますが、キーワード検索の対象は大きな事件の記事の見出しのみです。1987年以降は記事をテキストで収録しているため、記事の見出しと記事の全文をキーワードで検索できます。
キーワード検索以外には、日付検索があり、何年何月何日の新聞が読みたい、といった調べ方が可能です。
また、東京本社版や大阪本社版、地方版といった違いがあり、それぞれ収録範囲が異なるなど、複雑なので、利用の際には各データベースのヘルプを確認しましょう。
毎日新聞に掲載されていたはずなのに見つからない、という場合は、収録期間や検索対象から外れている可能性があります。データベースも万能ではありませんので、使い方には注意が必要です。

なお、Rマークがついているものは、自宅からも利用できるデータベースです。現在、このリストにある新聞やデータベースはすべてリモートアクセスが可能です。「キャンパス外から電子リソースを使う」ページからアクセスして使いましょう。



Press Readerでは、世界各国の新聞や一般雑誌を閲覧することができます。
閲覧できるのは、当日～90日前までの分です。

※データベース一覧ページに紀伊國屋書店作成の簡易マニュアルあり

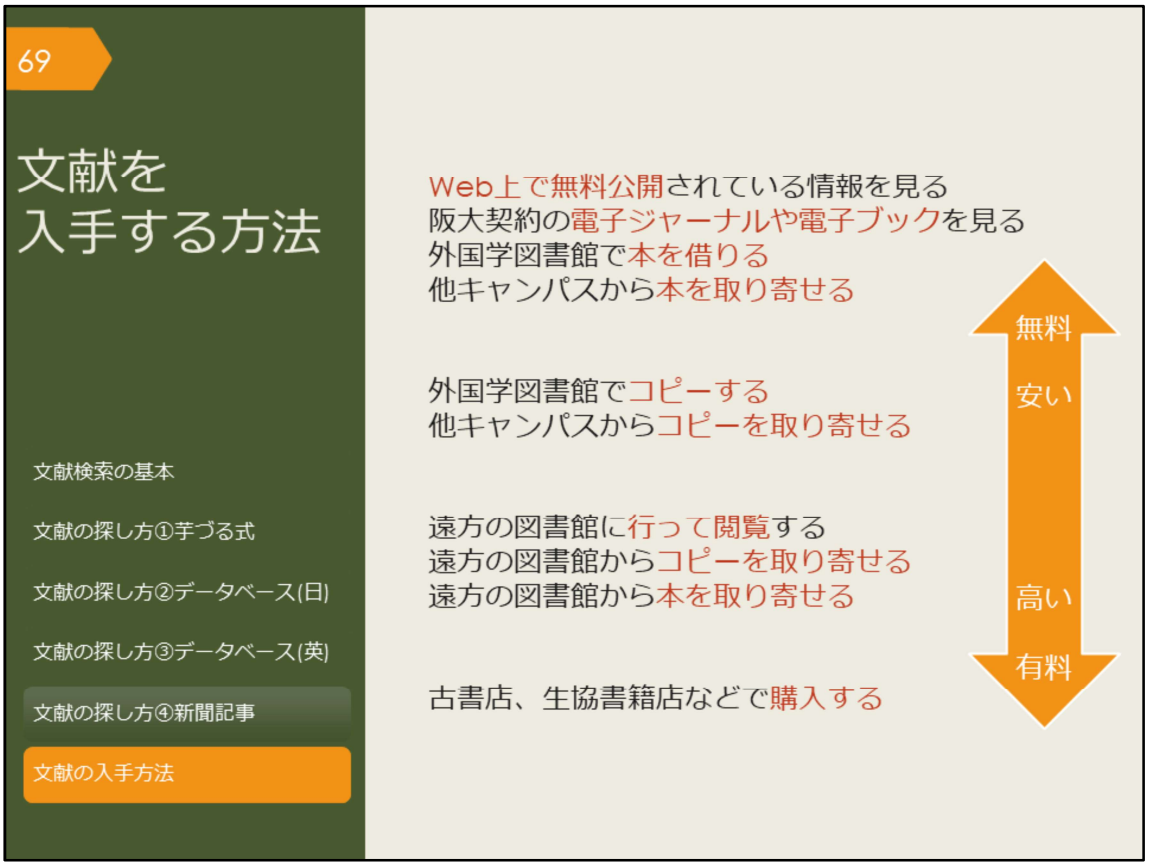
ProQuest Centralでも新聞記事を検索することができます。
検索ボックスに、キーワードを入力して検索してみましょう。
「発信元のタイプ」というところを見ると、学術誌、書籍などとともに、新聞があることが分かります。
ここの「新聞」をクリックすると、新聞記事に絞り込むことが可能です。

記事の見方、PDFダウンロード、検索結果の並び替え（古い順、新しい順など）について説明する

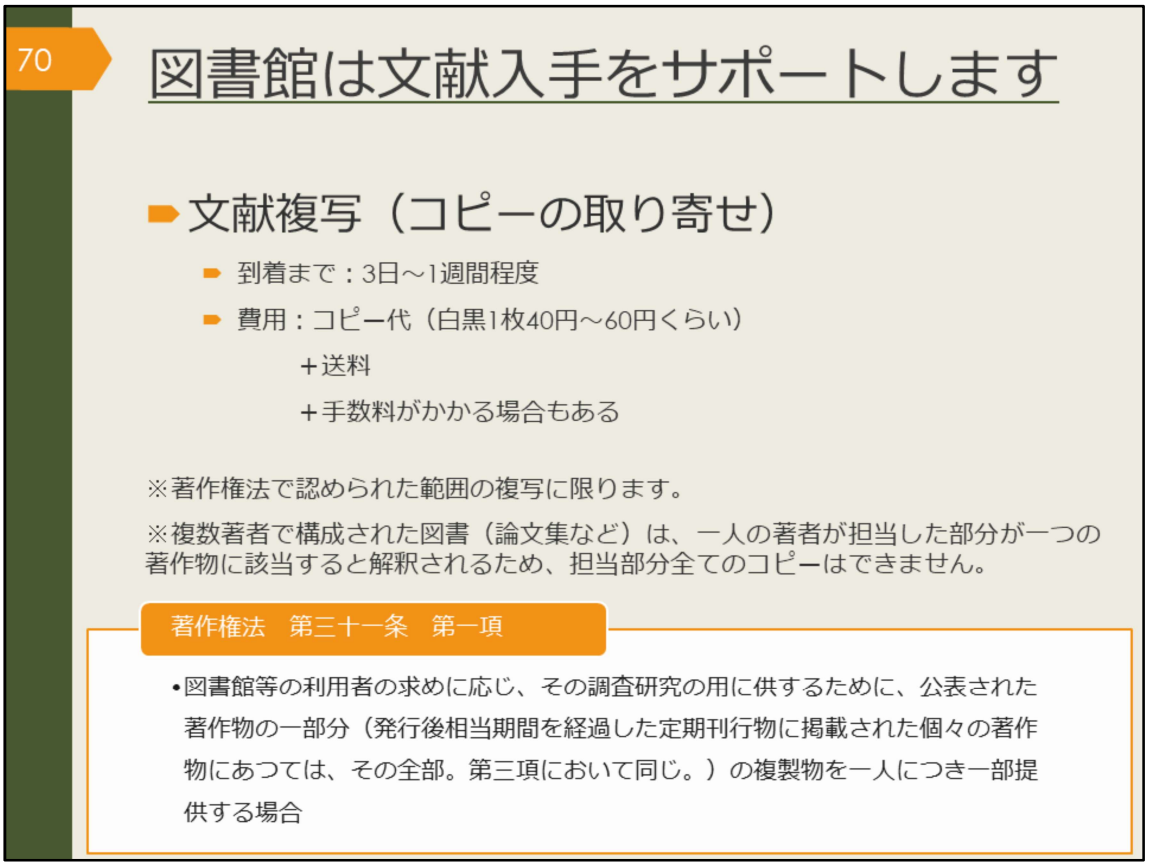
検索例：ミャンマーのクーデターに関する記事
myanmar coup　→比較的最近の記事のみヒット（昔の新聞記事はburma表記）
(myanmar OR burma) AND coup
→主題「coups d'etat」で絞り込む
→人物「Aung San Suu Kyi」で絞り込む
→並べ替え条件「最も古いものを最初に」で昔の記事を見る、などなど・・・

また、詳細検索の画面に切り替えると、日付を指定して探すことができます。何年何月何日の新聞記事を読みたい、という場合などに使ってみましょう。

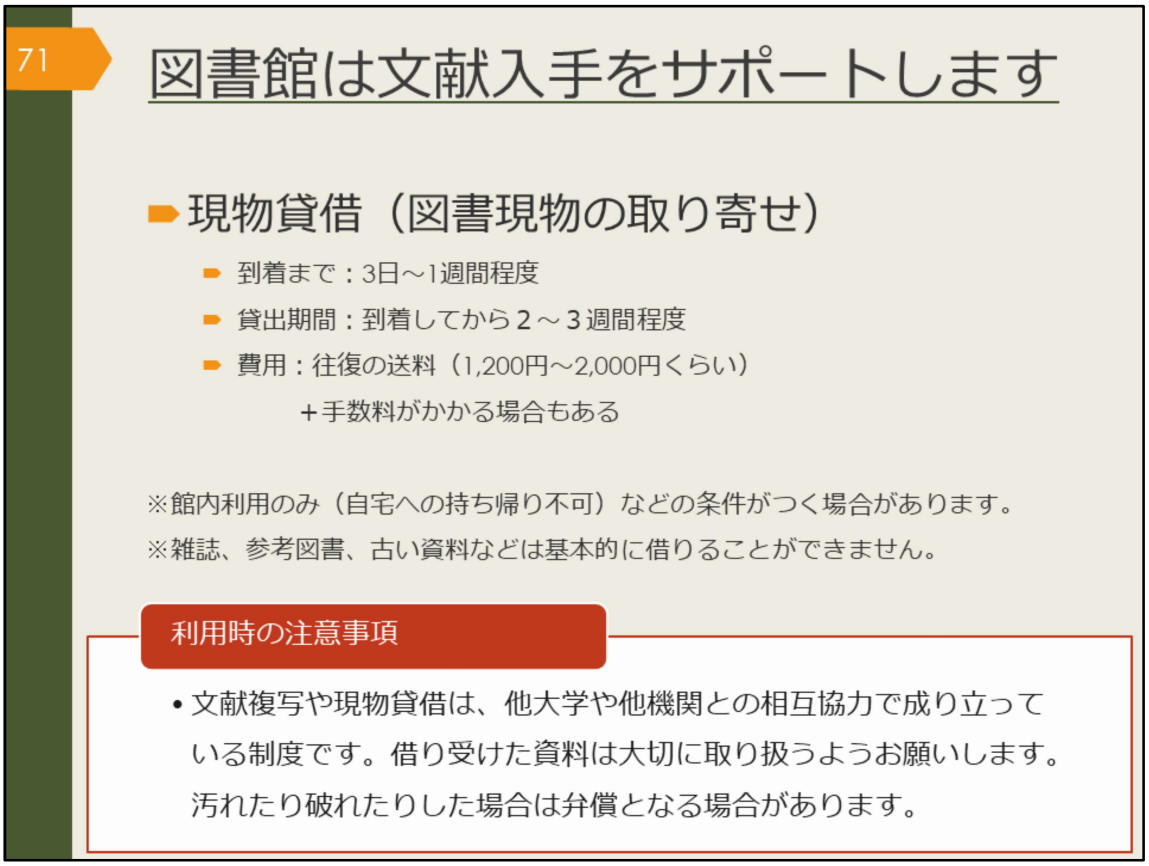
検索例：1990年5月27日の総選挙で野党NLDが勝利したことを報道する記事
キーワード“Myanmar “
日付1990年5月28日～5月29日くらい
→記事” Burmese opposition wins majority in elections”などがヒット



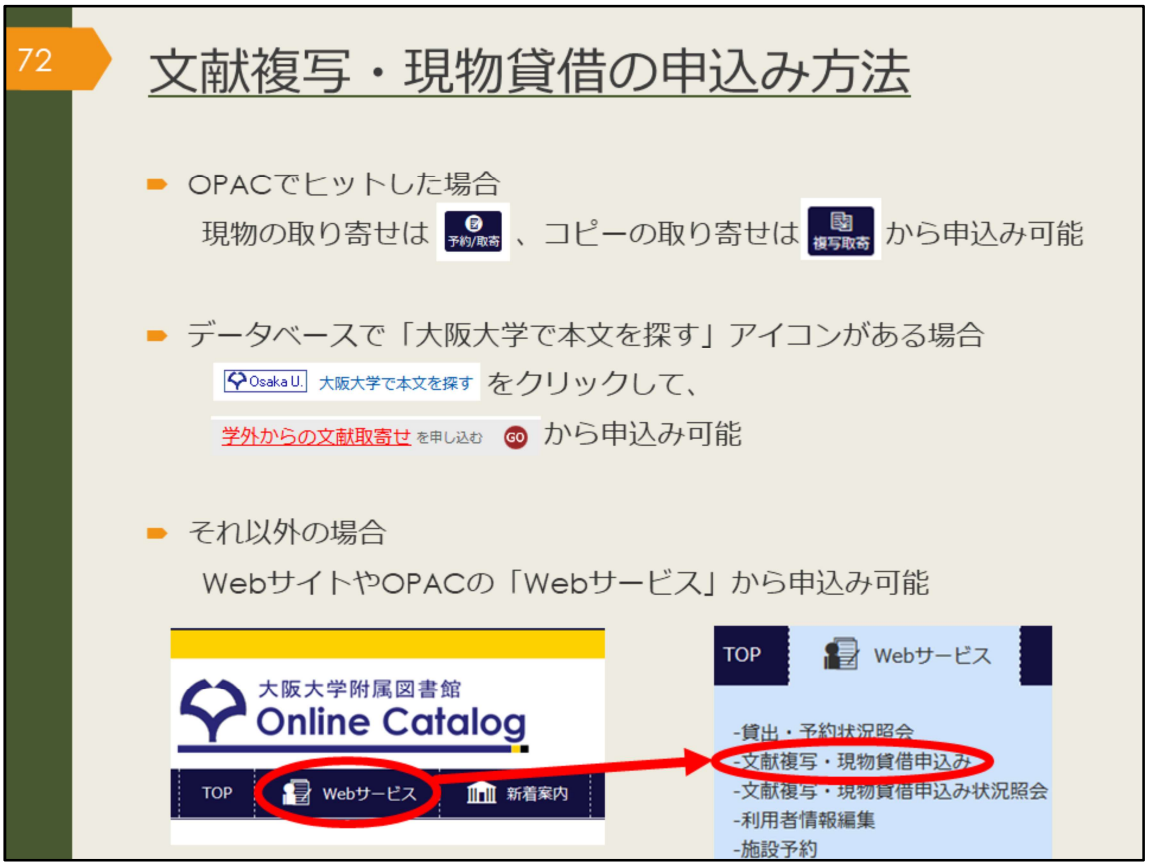
最後は、文献の入手方法についてです。
文献は、電子ジャーナルや電子ブックなどのように、インターネット上で自宅から見られるものもありますが、それは世の中にある情報のごく一部に過ぎません。一部の情報だけで、レポートや卒業論文を書くのは無理がありますし、良いものにもなりません。
皆さんにはぜひ、これから紹介する方法を駆使して、多くの文献を手に入れてほしいと思います。



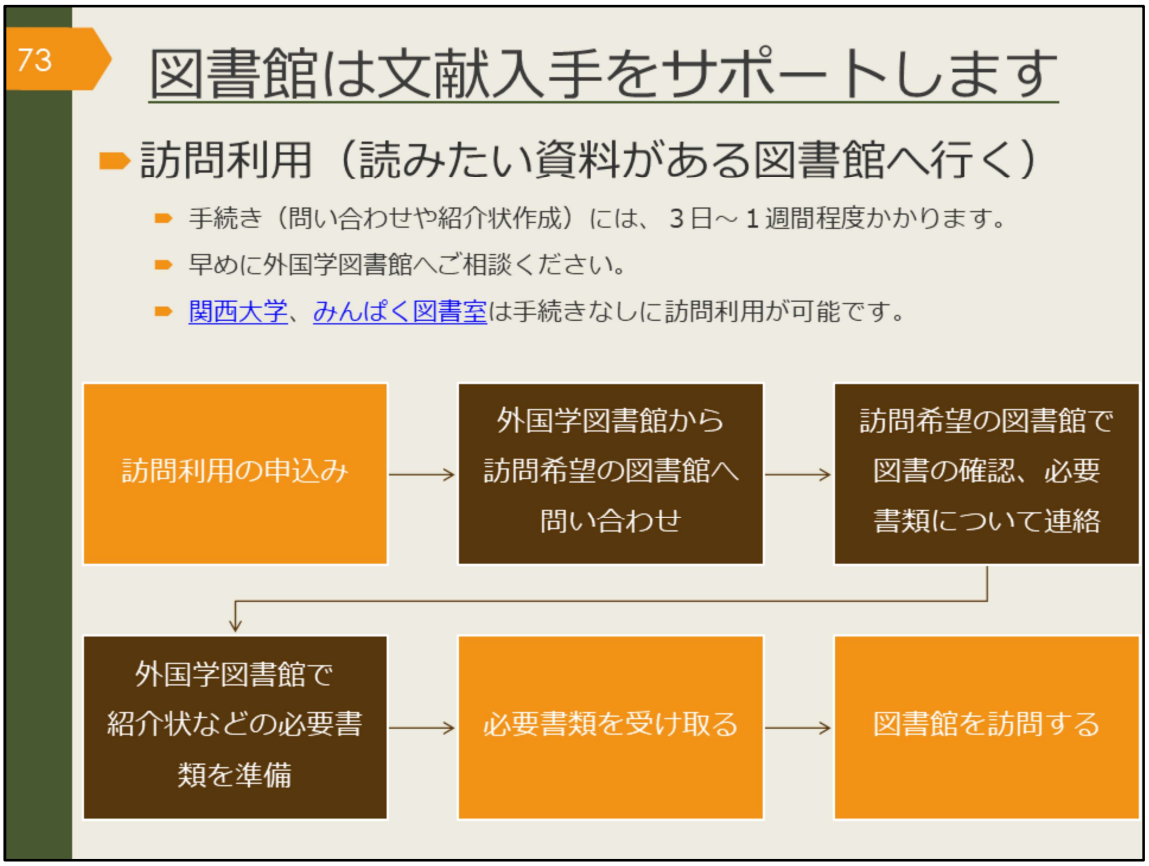
読みたい文献があるけれど、大阪大学では所蔵していない・・・そんなときも図書館はサポートします。
雑誌論文・記事はコピーを取り寄せることができます。ただし、コピー代と送料がかかります。
図書は、著作権法第31条により、全文コピーを取り寄せることができません。
全ページの半分以下、であれば取り寄せ可能です。
また、図書の場合は、次で紹介するように、現物を取り寄せて借りることも可能です。



図書現物は所蔵する大学図書館などから取り寄せることができます。おおよそ2週間から3週間程度、借りて読むことができます。
基本的には、自宅への持ち帰りが可能な条件で取り寄せを手配しますが、所蔵する図書館の方針によっては、外国学図書館内での利用に限定される場合もあります。
図書の取り寄せには往復の送料がかかります。雑誌は現物を借りることができませんので、該当ページのコピーを取り寄せる方法になります。



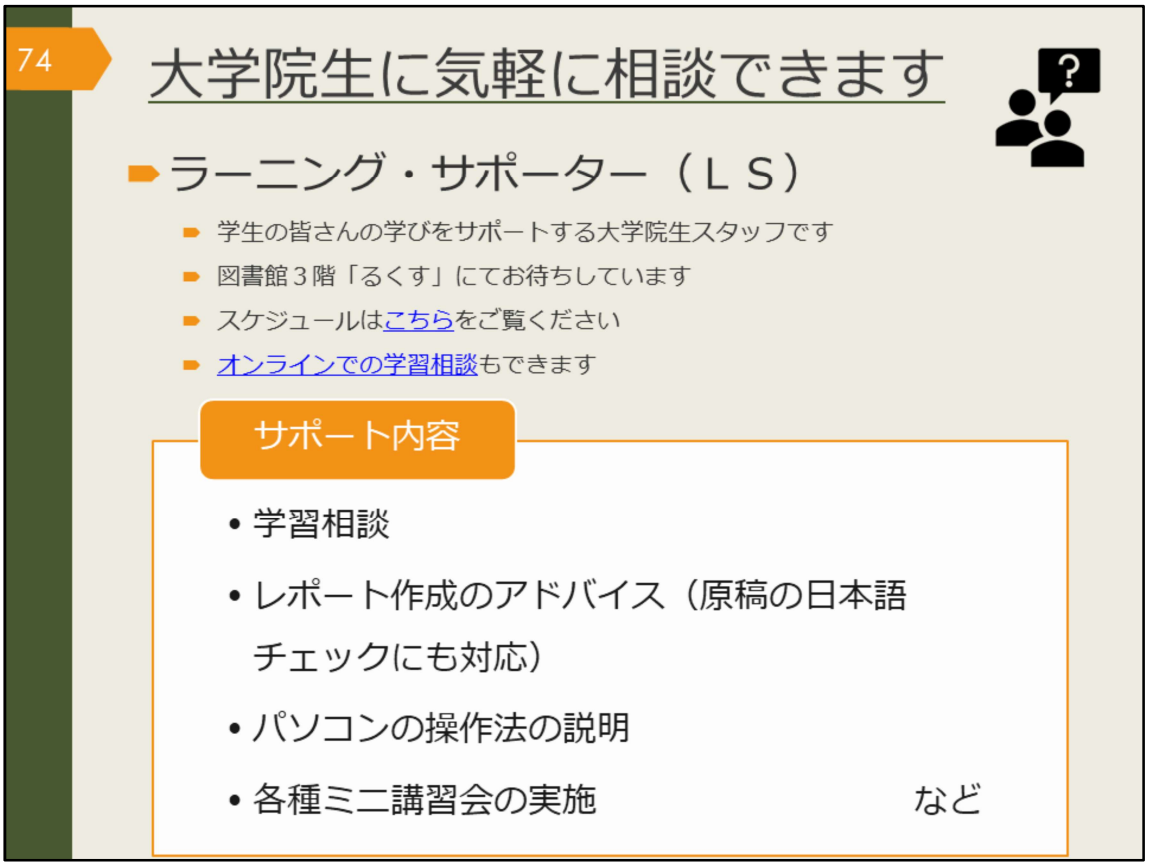
文献複写、現物貸借を申し込む場合は、阪大OPAC、「大阪大学で本文を探す」アイコン、附属図書館WebサイトのWebサービスからインターネットで申し込むことができます。
カウンターでは、紙の申込書を用意していますので、相談に来られた際に、その場で申し込むこともできます。



つぎに、学内で入手できない資料を、学外の所蔵館へ出向いて閲覧・複写することができる、訪問利用という方法を紹介します。事前の問い合わせや紹介状が必要な大学図書館がありますので、訪問希望日の3日前までに、余裕をもって外国学図書館にお申し込みください。
阪大生の皆さんは、関西大学の図書館は、協定により、事前問い合わせが必要なく、個人で登録すれば貸出が可能です。また、みんぱく図書室は、一般に広く公開されている図書室ですので、事前問い合わせは必要ありません。
ただ、いずれの図書館も、利用登録には身分証明書が必要なので、訪問する時にはリンク先の利用案内をよく確認しましょう。

【関西大学】
https://www.library.osaka-u.ac.jp/houmon/#kansaiuniv

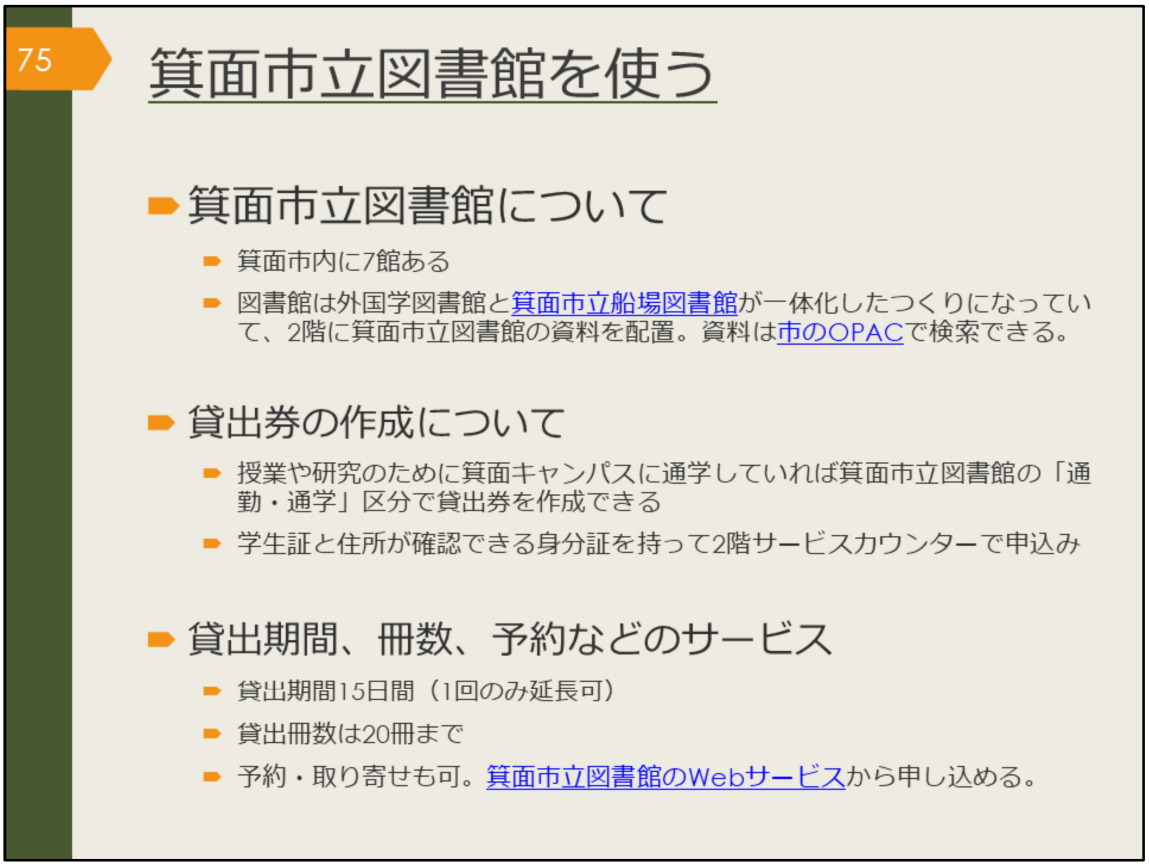
【みんぱく図書室】
https://www.minpaku.ac.jp/sharing/library/information/general



外国学図書館では、大学院生のラーニング・サポーターが、3階るくすで、学生の皆さんの学びをサポートしています。文献の探し方、入手方法が分からない場合には、ラーニング・サポーターにも、お気軽にご相談ください。

【こちら】（LSスケジュール）
https://www.library.osaka-u.ac.jp/gaikoku/ta/#activity

【オンラインでの学習相談】学内限定ページ
https://www.library.osaka-u.ac.jp/gakunai/gaikoku/online_ls/



キャンパスが位置する箕面市には、大学図書館だけでなく7つの公立図書館があります。

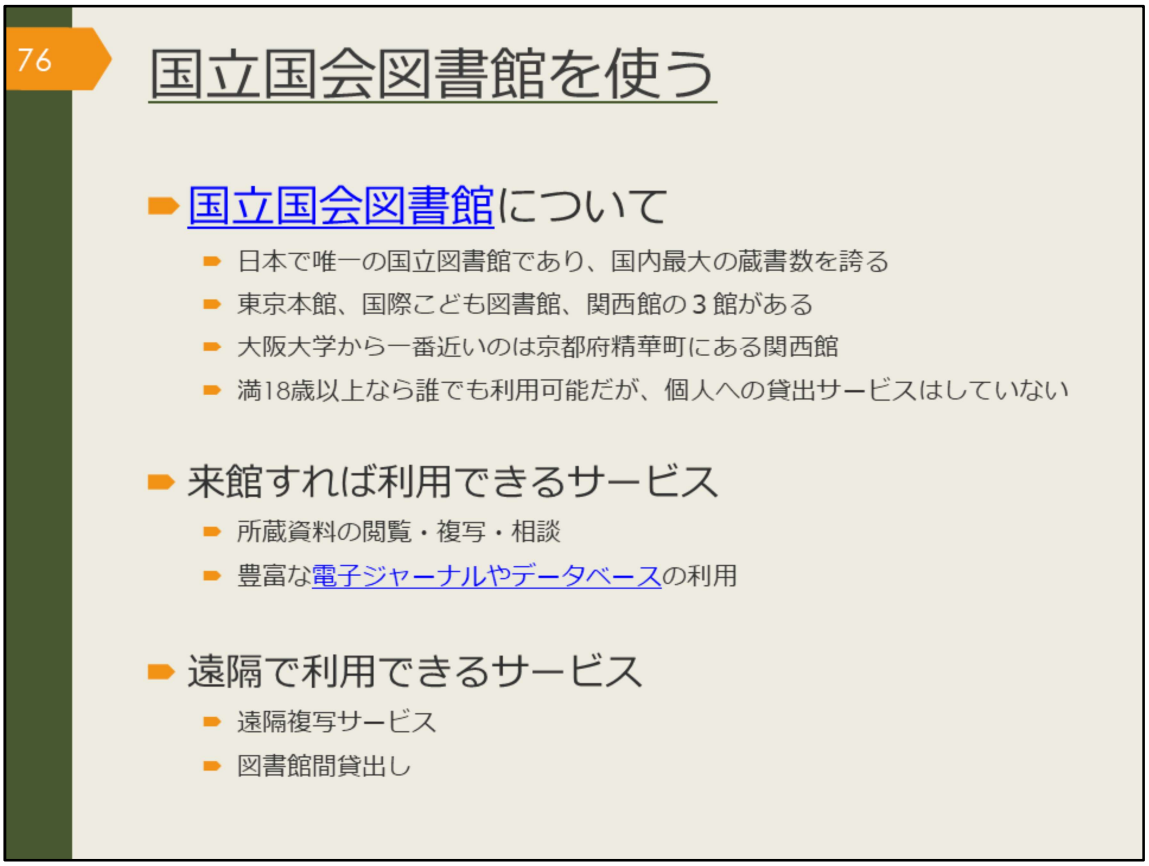
その中で、皆さんにとって一番身近な図書館となるのはおそらく箕面市立船場図書館です。
2021年に開館した箕面キャンパス隣接の図書館は、大阪大学外国学図書館と箕面市立船場図書館が一体化したつくりになっていて、2階に船場図書館の資料が配置されています。
実用書や小説など、大学図書館には所蔵が少ない分野の資料を閲覧できますので、ぜひ足を運んでみてください。
所蔵資料は箕面市図書館のOPACで検索できます。

授業や研究のために箕面キャンパスに通学していれば、皆さんも「通勤・通学」区分として箕面市立図書館の貸出券を作成できます。
学生証と住所が確認できる身分証を持って、2階サービスカウンターでお申込みください。

資料の貸出期間は15日です。次に予約がなく、ほかに借りている本に延滞がない場合には、1回のみ延長できます。
貸出冊数は20冊までです。
貸出中の資料や、他の箕面市図書館に所蔵がある資料については、予約や取り寄せも可能です。図書館2階のサービスカウンターか、箕面市立図書館のWebサービスからお申込みください。

【箕面市立船場図書館】
https://www.library.osaka-u.ac.jp/minohsemba/

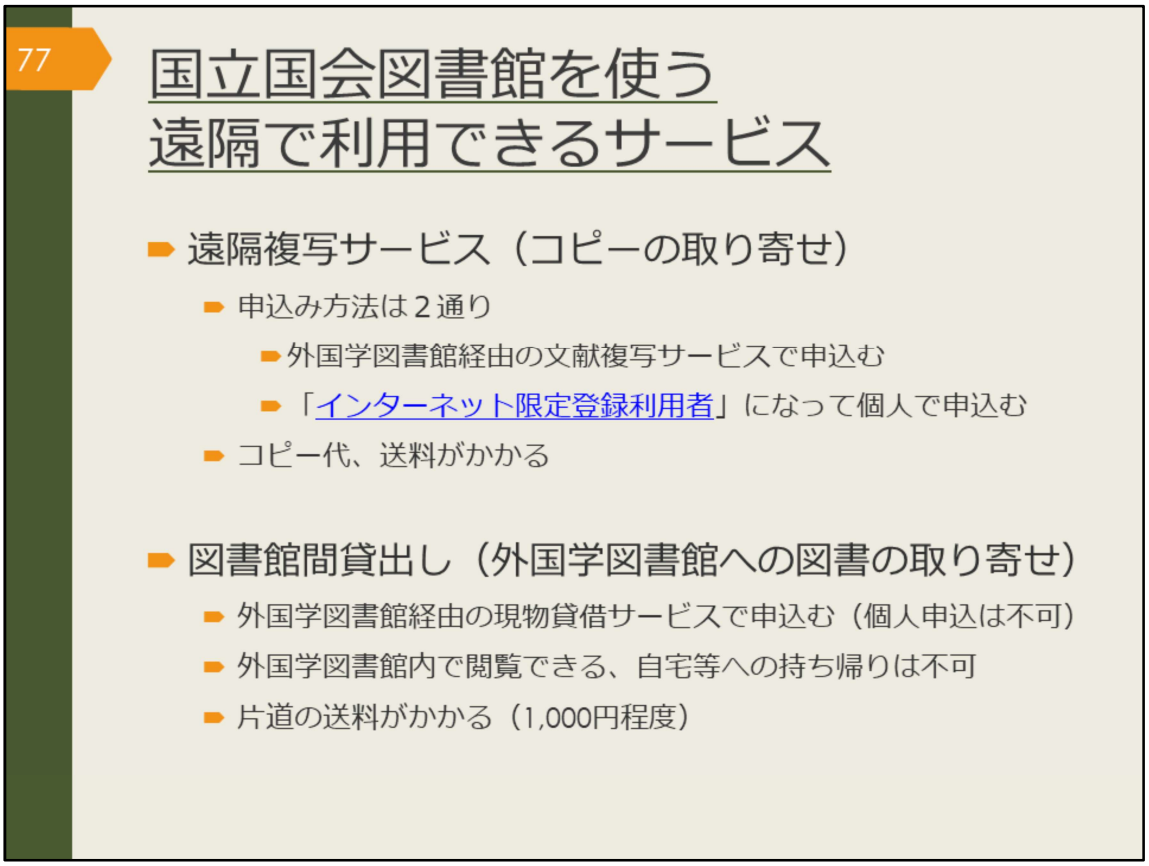
【箕面市立図書館　OPAC】
https://webopac.city.minoh.osaka.jp/opw/OPW/OPWSRCH1.CSP
【箕面市立図書館 Webサービス】
https://webopac.city.minoh.osaka.jp/opw/OPW/OPWMAIN.CSP



ここからは、国立国会図書館の使い方を案内します。
大阪大学から一番近い関西館は、大阪市内から1時間半ほどで行ける距離にあり、学術書を中心に220万冊以上、洋雑誌は関西館が主な所蔵館となり、約4万5000タイトルを所蔵しています。ほかに、アジア関係資料と国内博士論文を所蔵しています。
個人への貸し出しサービスは行っていませんが、来館することで利用できるサービスがたくさんあります。電子ジャーナルやデータベースも豊富で、その場でコピーを入手できます。
また、来館しなくても遠隔で利用できるサービスもありますので、次のスライドで詳しく紹介します。

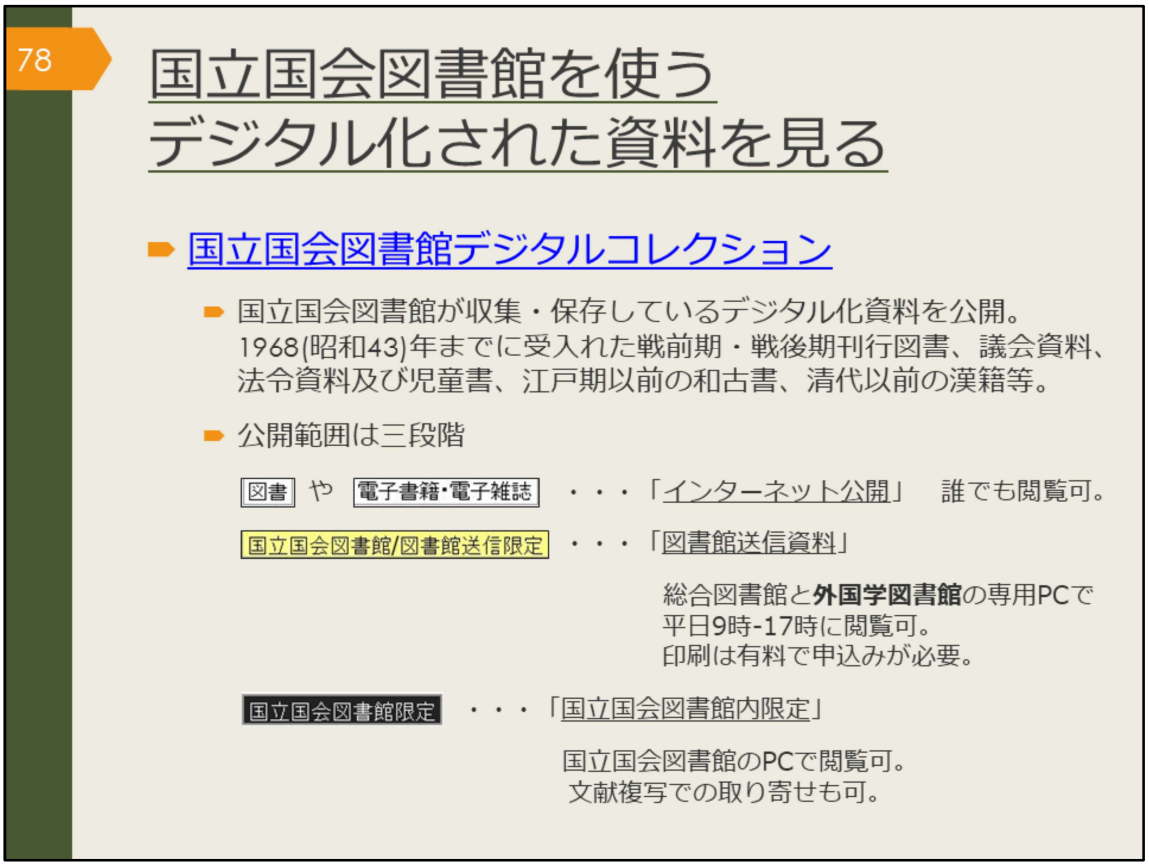
【国立国会図書館】
https://www.ndl.go.jp/

【電子ジャーナルやデータベース】
https://www.ndl.go.jp/jp/use/e_journals/index.html



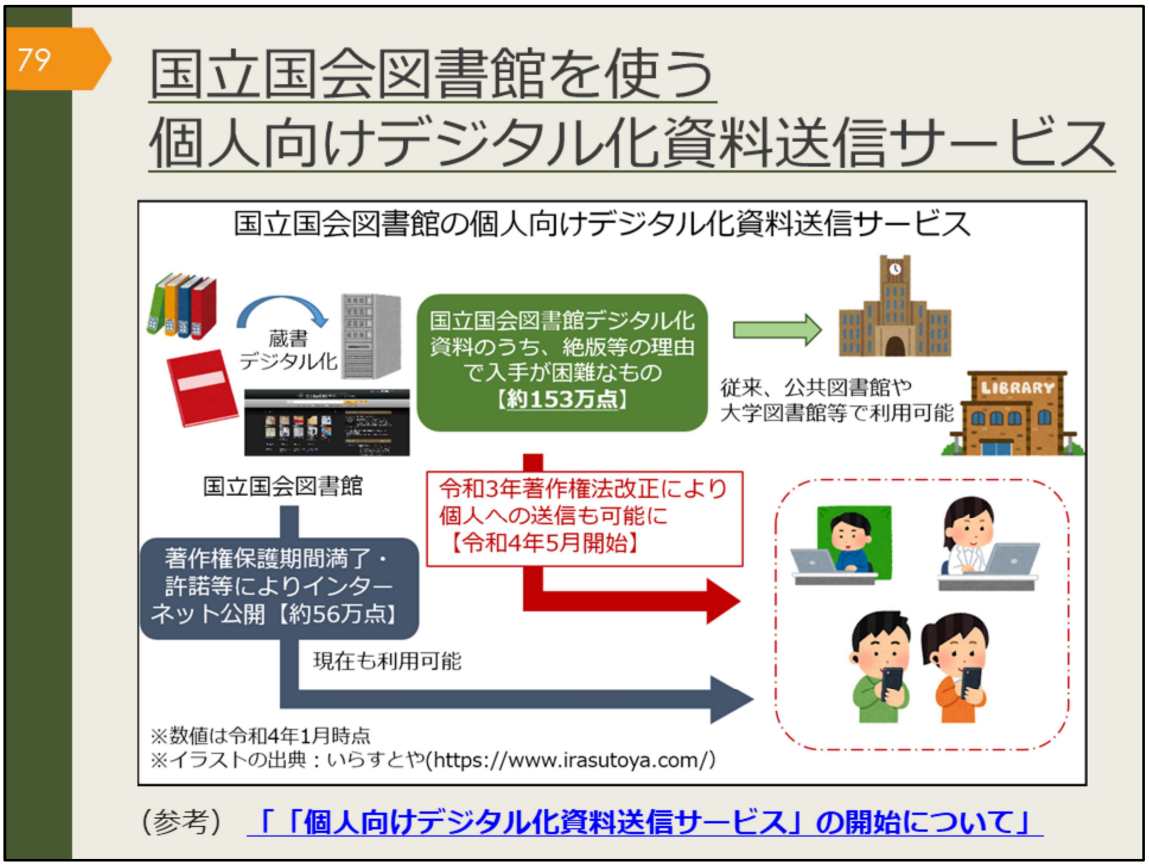
遠隔で利用できる国立国会図書館のサービスは、遠隔複写サービスと図書館間貸出です。
遠隔複写サービスは国立国会図書館が所蔵する資料のコピーを取り寄せるサービスです。個人でも申し込みが可能です。詳細はリンク先をご覧ください。
図書館間貸出は、国立国会図書館の所蔵図書を外国学図書館に取り寄せ、館内で閲覧できるサービスです。こちらは個人での申し込みはできませんので、外国学図書館のカウンターでお申込みください。

【インターネット限定登録利用者】
https://www.ndl.go.jp/jp/registration/index.html



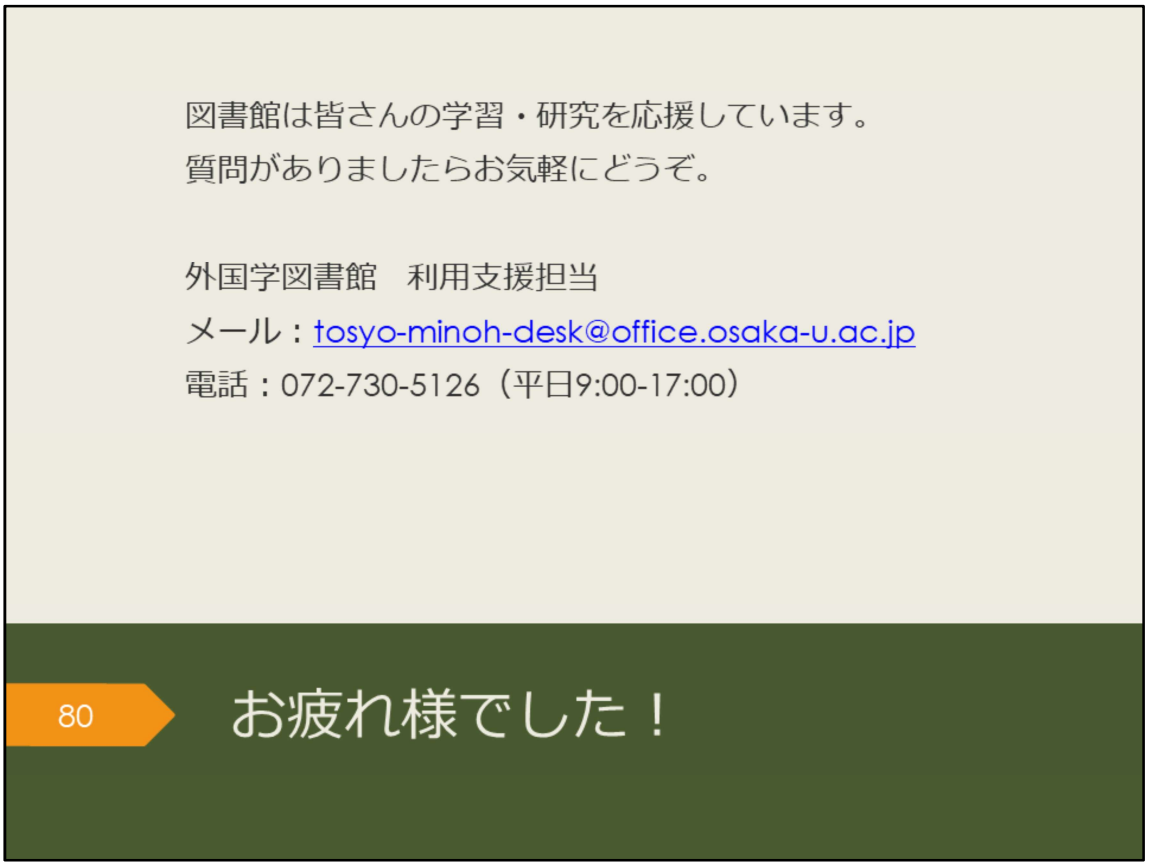
最後に、国立国会図書館がインターネット上で公開している、デジタルコレクションを紹介します。戦前の資料、江戸期以前の和古書、清代以前の漢籍等、著作権の切れた古い資料は公開され、インターネット上で閲覧できる場合が多いです。
誰でも閲覧可能なインターネット公開の資料、
外国学図書館の専用パソコンで閲覧可能な図書館送信限定の資料、
国立国会図書館でのみ閲覧可能な資料の3種類の公開範囲があります。
限定資料であっても、検索自体は自宅からでもできますので、ぜひ調べてみましょう。

【国立国会図書館デジタルコレクション】
https://dl.ndl.go.jp/



また、令和4年5月19日から新たなサービスとして、今までインターネット公開されていなかった資料も国立国会図書館の「個人の登録利用者」になればご自身の端末で閲覧できるようになります。詳細はリンク先をご覧ください。

【2022年2月1日 「個人向けデジタル化資料送信サービス」の開始について（令和4年5月19日予定）】
https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2021/220201_01.html



これで、外国学図書館の論文検索ガイダンスは終了です。お疲れさまでした。
図書館は皆さんの学習・研究を応援しています。お気軽にご質問ください。